

Oracle9i Client for Windows

インストール・ガイド

リリース 2 (9.2.0.1.0)

2002 年 7 月

部品番号 : J06479-01

ORACLE®

Oracle9i Client for Windows インストール・ガイド, リリース 2 (9.2.0.1.0)

部品番号 : J06479-01

原本名 : Oracle9i Client Installation Guide, Release 2 (9.2.0.1.0) for Windows

原本部品番号 : A95494-01

原本著者 : Janelle Simmons

原本協力者 : Toby Close, Jonathan Creighton, Raj Gupta, Clara Jaeckel, Stephen Lee, Mark Kennedy, Helen Slattery, Debbie Steiner, Linus Tanaka, Alice Watson

Copyright © 2001, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、**Oracle Corporation**（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である **Oracle Corporation**（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『**Restricted Rights**』と共に提供してください。この場合次の **Notice** が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	v
対象読者	vi
このマニュアルの構成	vi
関連文書	vii
表記規則	viii
 Oracle9i for Windows の新機能	xiii
Oracle9i for Windows リリース 2 (9.2) の新機能	xiv
Oracle9i for Windows リリース 1 (9.0.1) の新機能	xvi
 1 Windows 版 Oracle9i クライアントの概要	
インストールの計画	1-2
Optimal Flexible Architecture の使用方法	1-2
複数の Oracle ホームを使用するメリット	1-3
異なるリリースにおける複数の Oracle ホームの機能	1-3
Oracle8 リリース 8.0.4 より前	1-3
Oracle8 リリース 8.0.4 からリリース 8.0.6 まで	1-3
Oracle8i リリース 8.1.5 から Oracle9i リリース 2 (9.2) まで	1-4
Oracle Universal Installer の概要	1-4
Oracle Universal Installer の制限事項	1-5
インストール対象の Oracle9i クライアント製品	1-5
インストールの開始	1-6

2 インストール前の要件

単一 Oracle ホーム・コンポーネント	2-2
クライアント・コンポーネントのシステム要件	2-3
FAT および NTFS ファイル・システムのシステム要件	2-3
Oracle9i クライアントのシステム要件	2-4
オペレーティング・システムおよび Service Pack の要件	2-4
プロトコル・サポート	2-4
プロセッサ要件	2-4
ハードウェア要件	2-4
領域要件	2-5
Web ブラウザの要件	2-5
コンポーネントのサポート	2-6
Windows Terminal Server	2-6
Windows XP	2-6
個々のコンポーネントの必須要件	2-7
アプリケーションのリンクおよび再リンクの方針	2-7

3 Oracle Net Services 構成の方法の選択

ネットワークの構成方法	3-2
クライアント・ネットワークの構成	3-3
クライアント・ネットワークの構成	3-4

4 Oracle コンポーネントのインストール

Windows と UNIX でのインストールの相違	4-2
Oracle9i をインストールする前に	4-2
Oracle9i のインストールの開始	4-3
インストール・タイプの選択	4-5
Oracle9i Client の「管理者」または「ランタイム」インストール	4-5
Oracle9i Client の「カスタム」インストール	4-6
インストール・セッション・ログの確認	4-8
Oracle のコンポーネントとサービスの削除	4-9
Windows プラットフォームでの Oracle サービスの停止	4-10
Oracle Universal Installer によるコンポーネントの削除	4-10
Windows NT、Windows 2000 および Windows XP のレジストリからの Oracle キーの削除	4-12
システム変数パスの更新	4-14

「スタート」メニューからの Oracle の削除	4-14
Windows 98 のレジストリからの Oracle キーの削除	4-14
システム変数パスの更新	4-15
「スタート」メニューからの Oracle の削除	4-15

5 インストール後の構成タスク

NTFS ファイル・システムと Windows レジストリ権限	5-2
ファイル権限	5-2
Oracle Universal Installer により設定されるファイル権限	5-2
NTFS ファイル・システムのセキュリティの設定	5-3
Windows レジストリのセキュリティの設定	5-3
パッチ・セット情報	5-4
コンポーネント別インストール後の構成タスク	5-4

A インストール可能な個々のコンポーネント

Oracle9i Client のコンポーネント	A-2
コンポーネントの説明	A-5

B 拡張インストール

非対話形式モードでの Oracle コンポーネントのインストール	B-2
レスポンス・ファイルのコピーおよび変更	B-2
Oracle Universal Installer の実行およびレスポンス・ファイルの指定	B-3
異なる言語の Oracle コンポーネント	B-3
異なる言語での Oracle Universal Installer の実行	B-3
異なる言語での Oracle コンポーネントの使用方法	B-4
Web ベースのインストール	B-5

C グローバリゼーション・サポート

NLS_LANG パラメータ	C-2
一般的に使用される NLS_LANG の値	C-3
MS-DOS モードおよびバッチ・モードでの NLS_LANG 設定	C-5

用語集

索引

はじめに

このマニュアルでは、Windows 版 Oracle9i クライアントの概要、インストール前、インストールおよびインストール後の作業について説明します。

このマニュアルでは、Windows NT、Windows 2000、Windows XP および Windows 98 オペレーティング・システムに適用できる Oracle9i for Windows ソフトウェアの機能についてのみ説明します。

次の項目について説明します。

- [対象読者](#)
- [このマニュアルの構成](#)
- [関連文書](#)
- [表記規則](#)

対象読者

『Oracle9i Client for Windows インストール・ガイド』は、Oracle9i クライアントを「管理者」または「ランタイム」インストール・タイプでインストールまたは構成を行うユーザーを対象としています。

このマニュアルを使用するには、次のことに精通している必要があります。

- Windows NT、Windows 2000、Windows XP および Windows 98。また、これらをコンピュータ・システムにインストールし、テスト済であること。
- オブジェクト・リレーショナル・データベース管理の概念。

関連資料：

- オブジェクト・リレーショナル・データベース管理の概念の詳細は、『Oracle9i データベース概要』を参照してください。

このマニュアルの構成

このマニュアルは次のように構成されています。

第 1 章「Windows 版 Oracle9i クライアントの概要」

Windows 版 Oracle9i クライアントの概要を示し、インストールの計画について説明します。

第 2 章「インストール前の要件」

対応するオペレーティング・システム、Windows 版 Oracle9i クライアントのインストール・タイプと個別のコンポーネントの要件、およびサポートされているプロトコルについて説明します。

第 3 章「Oracle Net Services 構成の方法の選択」

インストール中に使用可能な Oracle Net Services ネットワークの構成方法について説明します。

第 4 章「Oracle コンポーネントのインストール」

Oracle コンポーネントのインストールおよび削除方法について説明します。

第 5 章「インストール後の構成タスク」

インストール後の構成タスクについて説明します。

付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」

各インストール・タイプで使用可能な個々のコンポーネントおよびそのコンポーネントの説明を記載します。

付録 B「拡張インストール」

第 4 章で説明していない拡張インストールについて説明します。

付録 C「グローバル化・サポート」

グローバル化・サポートについて説明します。

用語集

関連文書

詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』
- 『Oracle9i for Windows セキュリティおよびネットワーク統合ガイド』
- Oracle Enterprise Manager のドキュメント

ドキュメント・セット内の多くのドキュメントで、シード・データベースのサンプル・スキーマが使用されています。これらのスキーマは、Oracle をインストールするときにデフォルトでインストールされます。これらのスキーマの作成方法および使用方法の詳細は、『Oracle9i サンプル・スキーマ』を参照してください。

リリース・ノート、インストール・ドキュメント、ホワイト・ペーパー、またはその他の関連資料を無償でダウンロードするには、OTN-J (Oracle Technology Network Japan) にアクセスしてください。OTN-J を利用する前に、オンライン登録が必要です。次の URL で登録できます。

<http://otn.oracle.co.jp/membership/>

OTN-J のユーザー名およびパスワードをすでにお持ちの場合は、次の OTN-J の Web サイトのドキュメント・セクションに直接アクセスできます。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

表記規則

ここでは、このマニュアルの本文およびサンプル・コードで使用される表記規則について説明します。表記規則は次の 3 種類です。

- 本文の表記規則
- サンプル・コードの表記規則
- Windows オペレーティング・システムの表記規則

本文の表記規則

本文中では、特定の用語をより簡単に識別できるように、様々な表記規則を使用しています。次の表は、本文中で使用される表記規則とその使用例を説明したものです。

規則	意味	例
太字	太字は、本文中で定義されている用語、または用語集で説明されている用語、あるいはその両方を示します。	この句を指定する場合、 索引構成表 を作成します。
大文字（固定幅） フォント	大文字固定幅フォントは、システムによって指定される要素を示します。これらの要素には、パラメータ、権限、データ型、Recovery Manager のキーワード、Structured Query Language (SQL) のキーワード、SQL*Plus またはユーティリティのコマンド、パッケージ、メソッドの他に、システムで表示される列名、データベースのオブジェクトおよび構造、ユーザー名およびロールがあります。	この句は NUMBER 列に対してのみ指定できます。 BACKUP コマンドを使用して、データベースをバックアップできます。 USER_TABLES データ・ディクショナリ・ビューの TABLE_NAME 列を問い合わせます。 DBMS_STATS.GENERATE_STATS プロシージャを使用します。
小文字（固定幅） フォント	小文字固定幅フォントは、実行可能ファイル、ファイル名、ディレクトリ名、およびサンプルのユーザー指定要素を示します。これらの要素には、コンピュータ名およびデータベース名、ネット・サービス名、および接続識別子の他に、ユーザー指定のデータベースのオブジェクトおよび構造、列名、パッケージおよびクラス、ユーザー名およびロール、プログラム・ユニット、およびパラメータ値があります。 注意： 一部のプログラム要素には、大文字と小文字の両方が使用されます。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。	sqlplus を入力して、SQL*Plus を開きます。 パスワードは、orapwd ファイルで指定されます。 ¥disk1¥oracle¥dbs ディレクトリのデータ・ファイルと制御ファイルをバックアップします。 department_id、department_name および location_id 列は、hr.departments 表にあります。 QUERY_REWRITE_ENABLED 初期化パラメータを true に設定します。 oe ユーザーとして接続します。 JRepUtil クラスは、これらのメソッドを実装します。

規則	意味	例
小文字イタリック (固定幅) フォント	小文字イタリック固定幅フォントは、ブレースホルダまたは変数を示します。	<i>parallel_clause</i> を指定できます。 <i>Uold_release</i> .SQL を実行します。 <i>old_release</i> は、アップグレード前にインストールしたリリースを表します。

サンプル・コードの表記規則

サンプル・コードは、SQL、PL/SQL、SQL*Plus またはその他のコマンドライン文を示します。これらは固定幅フォントで示され、次の例のように、通常の本文とは区別されています。

```
SELECT username FROM dba_users WHERE username = 'MIGRATE';
```

次の表は、サンプル・コードで使用される表記規則とそれらの使用例を説明したものです。

規則	意味	例
[]	大カッコは、1 つ以上のオプション項目を囲みます。大カッコは入力しないでください。	DECIMAL (<i>digits</i> [, <i>precision</i>])
{ }	中カッコは複数の項目を囲み、そのうちの 1 つが必要であることを示します。中カッコは入力しないでください。	{ENABLE DISABLE}
	縦線は、大カッコまたは中カッコ内にある複数のオプションの選択肢を区切るために使用します。オプションの 1 つを入力します。縦線は入力しないでください。	{ENABLE DISABLE} [COMPRESS NOCOMPRESS]
...	水平の省略記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none">■ 例に直接関係のないコードの一部を省略■ コードの一部の繰り返しが可能	CREATE TABLE ...AS <i>subquery</i> ; SELECT <i>col1</i> , <i>col2</i> , ..., <i>coln</i> FROM employees;
. . . .	垂直の省略記号は、例に直接関係のないコードの行数を省略したことを示します。	SQL> SELECT NAME FROM V\$DATAFILE; NAME ----- /fs1/dbs/tbs_01.dbf /fs1/dbs/tbs_02.dbf . . . /fs1/dbs/tbs_09.dbf 9 rows selected.

規則	意味	例
その他の表記規則	大カッコ、中カッコ、縦線および省略記号以外の記号は、示されているとおりに入力してください。	acctbal NUMBER(11,2); acct CONSTANT NUMBER(4) := 3;
イタリック	イタリックの文字は、特定の値を指定する必要があるプレースホルダまたは変数を示します。	CONNECT SYSTEM/system_password DB_NAME = database_name
大文字	大文字は、システムによって指定される要素を示します。ユーザーが定義する語句と区別するために、大文字で示しています。語句が大カッコ内に表示されている場合を除き、記載されているとおりの順序とスペルで入力します。ただし、これらの語句には大文字と小文字の区別がないため、小文字で入力できます。	SELECT last_name, employee_id FROM employees; SELECT * FROM USER_TABLES; DROP TABLE hr.employees;
小文字	小文字は、ユーザーが指定するプログラム要素を示します。たとえば、小文字は表、列またはファイルの名前を示します。 注意： 一部のプログラム要素には、大文字と小文字の両方が使用されます。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。	SELECT last_name, employee_id FROM employees; sqlplus hr/hr CREATE USER mJones IDENTIFIED BY ty3MU9;

Windows オペレーティング・システムの表記規則

次の表は、Windows オペレーティング・システムの表記規則とその使用例を説明したものです。

規則	意味	例
「スタート」→を選択	プログラムの起動方法。たとえば、Database Configuration Assistant を起動するには、タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」→「Oracle - HOME_NAME」→「Configuration and Migration Tools」→「Database Configuration Assistant」を選択します。	「スタート」→「プログラム」→「Oracle - HOME_NAME」→「Configuration and Migration Tools」→「Database Configuration Assistant」を選択します。
ファイル名およびディレクトリ名	ファイル名およびディレクトリ名には、大文字と小文字の区別がありません。＜、＞、：、"、/、 、および - の特殊文字は使用できません。特殊文字 ¥ は、引用符に囲まれている場合でも、要素の区切り文字として扱われます。ファイル名が ¥¥ で始まる場合、Windows では汎用命名規則を使用しているものと認識されます。	c:¥winnt"¥"system32 は、C:¥WINNT¥SYSTEM32 と同じです。
C:¥>	現行のハード・ディスク・ドライブの Windows コマンド・プロンプトを示します。コマンド・プロンプトのエスケープ文字は、カレット (^) です。プロンプトは、現在作業中のサブディレクトリを示しています。このマニュアルでは、コマンド・プロンプトと呼びます。	C:¥oracle¥oradata>
特殊文字	特殊文字の円記号 (¥) は、Windows コマンド・プロンプトで特殊文字の二重引用符 (") のエスケープ文字として必要な場合があります。カッコおよび特殊文字の一重引用符 (') は、エスケープ文字を必要としません。エスケープ文字および特殊文字の詳細は、Windows オペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。	C:¥>exp scott/tiger TABLES=emp QUERY=¥"WHERE job='SALESMAN' and sal<1600¥" C:¥>imp SYSTEM/password FROMUSER=scott TABLES=(emp, dept)
HOME_NAME	Oracle ホーム名を示します。 ホーム名は、英数字 16 文字までです。ホーム名で利用できる特殊文字は、アンダースコアのみです。	C:¥> net start OracleHOME_NAME_TNSListener

規則	意味	例
ORACLE_HOME および ORACLE_BASE	<p>Oracle8 リリース 8.0 以下のリリースでは、Oracle コンポーネントをインストールすると、サブディレクトリはすべて、最上位の ORACLE_HOME ディレクトリ（デフォルトでは次のとおり）の下に置かれました。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows NT の場合は C:¥orant■ Windows 98 の場合は C:¥orawin98 <p>あるいは、Oracle ホームと呼ばれるディレクトリの下に置かれました。</p> <p>今回のリリースは、Optimal Flexible Architecture (OFA) に準拠しています。すべてのサブディレクトリが最上位の ORACLE_HOME ディレクトリの下にあるわけではありません。ORACLE_BASE という最上位ディレクトリがあり、デフォルトは C:¥oracle です。コンピュータに最新の Oracle リリースをインストールし、他の Oracle ソフトウェアをインストールしない場合、最初の Oracle ホーム・ディレクトリのデフォルト設定は、C:¥oracle¥orann です。nn は、最新のリリース番号です。Oracle ホーム・ディレクトリは、ORACLE_BASE の直下に置かれます。</p> <p>このマニュアルでは、ディレクトリ・パスの例は、すべて OFA 表記規則に準拠しています。</p>	<p>%ORACLE_HOME%¥rdbms¥admin ディレクトリに移動します。</p>

Oracle9i for Windows の新機能

この項では、Oracle9i for Windows リリース 2 (9.2) の新機能について説明し、追加情報の参照先を示します。

次の項では、Oracle9i の新機能について説明します。

- [Oracle9i for Windows リリース 2 \(9.2\) の新機能](#)
- [Oracle9i for Windows リリース 1 \(9.0.1\) の新機能](#)

関連資料：

- Oracle9i の新機能、オプションおよび拡張機能の一覧は、『Oracle9i データベース新機能』を参照してください。

Oracle9i for Windows リリース 2 (9.2) の新機能

次の内容について説明します。

- [拡張されたセキュリティ](#)
- [Oracle Provider for OLE DB](#)
- [Oracle Services for Microsoft Transaction Server](#)
- [User Migration Utility](#)
- [大容量メモリー \(VLM\) のサポート](#)
- [Oracle9i リリース 2 \(9.2\) でサポートされないコンポーネント](#)

拡張されたセキュリティ

SYS パスワードと SYSTEM パスワードの変更要件

Database Configuration Assistant を使用してデータベースを作成する場合は、構成プロセスの最後に SYS パスワードと SYSTEM パスワードを変更する必要があることに注意してください。これは、データへのアクセスを保護するために設計された新しいセキュリティ手順です。

Oracle Provider for OLE DB

ADO.NET アプリケーション開発者は、OLE DB .NET データ・プロバイダを介して Oracle Provider for OLE DB (OraOLEDB) を使用できます。接続時に接続属性 OLEDB.NET を設定して、OraOLEDB を OLE DB .NET データ・プロバイダと互換にすることができます。

関連資料：『Oracle Provider for OLE DB 開発者ガイド』

Oracle Services for Microsoft Transaction Server

Oracle Services for Microsoft Transaction Server は、Oracle Provider for OLE DB を介した OLE DB .NET および Oracle ODBC ドライバを介した ODBC .NET を使用して、.NET トランザクション・アプリケーションをサポートします。

User Migration Utility

新しいコマンドライン・ツールである User Migration Utility は、ローカルまたは外部データベース・ユーザーからエンタープライズ・ユーザーへの変換を簡略化します。

関連資料：

- 『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』の「データベース・ツールの概要」
- 『Oracle9i for Windows セキュリティおよびネットワーク統合ガイド』の「ユーザーの手動による移行」
- 『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』の「ローカルまたは外部ユーザーからエンタープライズ・ユーザーへの移行」

大容量メモリー（VLM）のサポート

Oracle9i for Windows リリース 2 (9.2) は、Windows 2000 および Windows XP での大容量メモリー（VLM）構成をサポートします。これにより、Oracle9i リリース 2 (9.2) は、Windows アプリケーションでこれまで使用可能だった 4 ギガバイト（GB）を超える RAM にアクセスできます。

関連資料：『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』の「Windows での Oracle9i の拡張性」

Oracle9i リリース 2 (9.2) でサポートされないコンポーネント

リリース 1 (9.0.1) に含まれていた次の Oracle9i データベース・コンポーネントは、リリース 2 (9.2) ではインストールできません。

- Remote Method Invocation (RMI) /Internet Inter-ORB Protocol (IIOP)
- General Inter-ORB Protocol (GIOP)
- Oracle Servlet Engine (OSE)
- Common Object Request Broker Architecture (CORBA) フレームワークおよび J2EE コンテナ
- Java 2 Enterprise Edition (J2EE)
- Java Transaction API (JTA)
- Java Naming and Directory Interface (JNDI)
- CosNaming
- サブレット
- Oracle Java Server Pages (OSJP)
- EJB コンテナ

次のコンポーネントは、今後のリリースでサポートされなくなります。

- INTYPE File Assistant (IFA)。
- Oracle Trace。オラクル社では、かわりに SQL トレースおよび TKPROF を使用することを強くお勧めします。

Oracle9i for Windows リリース 1 (9.0.1) の新機能

- **Windows NT および Windows 2000 との統合**
 - Oracle9i は、Windows 2000 および Windows NT を含む複数バージョンの Microsoft Windows をサポートします。
 - Oracle9i は、Microsoft Transaction Services および Internet Information Services との拡張された統合をサポートします。Oracle9i の公開鍵インフラストラクチャ (PKI) およびシングル・サインオン機能は、Windows 2000、Active Directory および Microsoft 証明書ストアとも統合されています。
 - Oracle9i は、Oracle データベースが Microsoft Transaction Server および COM+ Transactions 環境にリソース・マネージャとして関与できるようにする拡張ソリューションも提供し、パフォーマンスおよび拡張性を高めています。
 - Windows セキュリティにより、レジストリおよび Active Directory で Oracle Wallets をサポートし、Oracle 製品で Microsoft 証明書ストアが使用できるようになります。

Active Directory と Oracle Internet Directory の同期により、Oracle およびサード・パーティ製メタディレクトリ・コンポーネントのスケジューリングおよび構成が集中化されます。
 - Oracle Internet Directory を中央のディレクトリとして実装する一方でデスクトップ環境をサポートするために Active Directory を使用するカスタマは、Microsoft Active Directory Service Interfaces (ADSI) を使用して Windows デスクトップ環境から Oracle Internet Directory にアクセスできます。
 - Active Directory と Oracle Internet Directory の間のメタディレクトリ同期により、Oracle およびサード・パーティ製メタディレクトリ・コンポーネントの集中化されたスケジューリングおよび構成が容易になります。Active Directory と Oracle Internet Directory の間の同期は、Oracle Directory Integration Platform および Siemens 社の Active Directory Synchronization エージェントを配置することで実現できます。
 - 今後の CD パックで出荷される Oracle Fail Safe は、Windows NT および Windows 2000 で構成されているすべての Microsoft Cluster Server クラスタに配置される Oracle データベースおよびアプリケーションの可用性を高めます。

- Windows 開発者に対し、Oracle9i は拡張されたネイティブ OLE DB プロバイダを提供します。XML、データベース・イベントおよび Oracle9i 拡張機能は、Oracle Objects for OLE を通じてサポートされます。COM Automation は、Java ストアド・プロシージャもサポートするようになりました。

■ iSQL*Plus

iSQL*Plus は、SQL*Plus のブラウザベースの実装です。iSQL*Plus をインターネット上で使用して Oracle データベースに接続し、SQL*Plus コマンドラインを使用する場合と同じアクションを実行できます。iSQL*Plus の実装では、Web ブラウザ、iSQL*Plus サーバーを伴う Oracle HTTP Server、および Oracle データベース・サーバーを使用します。

■ Microsoft Transaction Server (MTS)

次の表に、Oracle9i と Microsoft Transaction Server の連携における新機能の一部を示します。

パフォーマンスの改善	Microsoft Transaction Server アプリケーションと Oracle Service for MTS の間の通信は、必要なくなりました。
高可用性	Oracle データベースは、Oracle Service for MTS に依存しなくなりました。これまでは、Oracle Service for MTS が停止すると、Microsoft Transaction Server トランザクションで Oracle データベースを使用できませんでした。
拡張性の改善	現在、Oracle データベースを Microsoft Transaction Server トランザクションで使用可能にするコードが、各 Microsoft Transaction Server アプリケーション・プロセスに埋め込まれています。
より簡単な構成	以前のバージョンでは、データベースを Microsoft Transaction Server トランザクションでできるようにし、Oracle Service for MTS という Windows サービスを各 Oracle データベースに対して作成する必要がありました。さらに、各 Oracle データベースでサポートされる Oracle Service for MTS は 1 つにかぎられていました。このリリースでは、このサービスは必要なくなりました。

関連資料：『Oracle Services for Microsoft Transaction Server 開発者ガイド』

■ Oracle COM Automation

Oracle COM Automation は、PL/SQL にかぎらず Java でも使用可能になりました。一般的な機能は同様ですが、開発者ガイドには、機能、設定およびアーキテクチャが異なる領域が示されています。

このリリースでは、Oracle は com81.dll の名前を orawpcom.dll に変更しました。Oracle8i から移行するユーザーは、PL/SQL 用の Oracle COM Automation の使用を継続するには comwrap.sql を再実行する必要があります。

関連資料：『Oracle COM Automation 機能 開発者ガイド』

- **Database Configuration Assistant の改良**

Database Configuration Assistant は、テンプレートとして保存されたデータベース定義を含むよう再設計されました。テンプレートで、データベースを生成できます。ユーザーは、新規テンプレートを定義、既存のテンプレートを変更またはオラクル社が提供しているテンプレートを使用できます。Database Configuration Assistant でデータベースを作成する際に、ユーザーは Oracle の新しいサンプル・スキーマを含めることができます。

- **Oracle DBA Studio と Enterprise Manager コンソールの統合**

Oracle DBA Studio は、単独のアプリケーションとしては使用できなくなりました。このコンポーネントの機能は、Oracle Enterprise Manager コンソールと統合されました。

関連資料：『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

- **Oracle Internet Directory 管理の改良**

Oracle Internet Directory レプリケーション・サーバーの管理は、新しいレプリケーション・キュー管理および調整ツールの追加によって改良されました。

- **Oracle Objects for OLE**

Oracle Objects for OLE は、一時的なバイナリ・ラージ・オブジェクト（BLOB）またはキャラクタ・ラージ・オブジェクト（CLOB）の作成をサポートします。これらのオブジェクトを操作すると、SQL 文または PL/SQL ブロックへのバインドや永続 LOB へのコピーが可能です。

Oracle Objects for OLE はデータベース・イベントをサポートします。この非同期通知はフェイルオーバー・ハンドラと同じ方法でモデル化されるため、クライアントは 1 つ以上のデータベース・イベントにサブスクライブし、その他の処理を続行できます。クライアントに関係がある各データベース・イベントは、Oracle Objects for OLE によりサブスクリプションとして保存されます。

関連資料：「Oracle Objects for OLE」オンライン・ヘルプ

- **Oracle OLAP Services**

Oracle OLAP Services は、Java OLAP API および分析エンジンを提供します。開発者は、OLAP Services を使用して、予測、モデル化、統合、割当て、シナリオ管理などの予測的分析機能とともに複雑な統計、数学および財務の計算をサポートする分析アプリケーションを構築できます。OLAP API はすべて Java であるため、OLAP Services を使用すると、インターネット上の幅広い地域に分散する多数のユーザーに分析アプリケーションを配布できます。Oracle OLAP Services は、Oracle9i Enterprise Edition でインストールされます。

関連資料：『Oracle9i OLAP Services Concepts and Administration Guide』

■ **Oracle Personal Edition for Windows 98**

Oracle9i リリース 1 (9.0.1.1.1) が、Oracle Personal Edition for Windows 98 の最終リリースです。

■ **Oracle Real Application Clusters**

Oracle Real Application Clusters は、新しい画期的なソフトウェア・アーキテクチャであり、以前の Oracle クラスタ対応ソフトウェア・リリースの機能を超える拡張性および高可用性機能を備えています。

次の表に、Oracle9i での Oracle Real Application Clusters の機能の一部を示します。

キャッシュ・フュージョン	ディスク I/O コストを課さずに、複数のクラスタ・ノード間でのキャッシュ一貫性を保証するテクノロジー。
クラスタ構成	<p>Windows 上の Oracle Real Application Clusters の Oracle9i リリースでは、クラスタ構成がより簡単になります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ このリリースでは、Oracle オペレーティング・システム固有クラスタウェア (Oracle OSD) が提供されています。Oracle OSD は、オペレーティング・システムと Oracle Real Application Clusters ソフトウェア間の通信リンクとして機能します。■ Oracle Cluster Setup Wizard は、クラスタの作成または既存のクラスタへのノードの追加を行います。
集中化されたノード情報	<p>集中化されたクラスタ・データベースの構成情報。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 集中化された構成情報リポジトリを介した簡単な構成。■ Oracle Enterprise Manager または <code>srvctl</code> ユーティリティを使用して、静的構成情報の追加や削除などのインスタンスの管理を行います。■ Database Configuration Assistant を使用して、クラスタ・データベースのインスタンスの追加または削除を動的に行います。

関連資料：

- その他の新機能については、Oracle Real Application Clusters のドキュメント・セットを参照してください。
- 別途インストール可能な、Oracle Real Application Clusters に対する Windows 固有の拡張機能の詳細は、Oracle Real Application Clusters Guard for Windows のドキュメント・セットを参照してください。このドキュメントは、今後の CD パックで出荷される Oracle Fail Safe および Oracle Real Application Clusters Guard のコンポーネント CD に含まれています。

■ Oracle Ultra Search

Oracle Ultra Search は、Oracle9i の新機能であり、あらゆる場所に存在する情報を検索できる、すぐに使用可能なソリューションを提供します。Ultra Search には、次の機能があります。

- Oracle および Oracle 以外のデータベース、Web サーバー、ディスク上のファイル、企業のメール・サーバーなど、存在する場所に関係なく内容を検索できます。
- Crawler を使用して、企業イントラネットをクロールし、索引を付け、検索可能にします。ドキュメントは自身のリポジトリ内にとどまり、クロールされた情報によって、指定された Oracle9i データベースのファイアウォール内に索引が作成されます。
- 直観的な検索メニューおよびセルフサービス・アクセス機能を使用して Web スタイルの検索を実行できます。使用が難しい低レベル Application Program Interface (API) に対してコーディングする必要はありません。ただし、高度なユーザーには API も公開されます。
- ポータル・アプリケーションで使用できる貴重なメタデータを抽出することにより、内容を編成および分類します。
- より関連性の高いヒットを返すことにより、効果的な検索機能を提供します。

■ Oracle Workflow

Oracle Workflow は、ビジネス・イベント・システムを提供しています。ビジネス・イベント・システムは、Oracle Advanced Queuing のインフラストラクチャを利用して、企業内のシステム間および企業間でビジネス・イベントを伝達する新しいアプリケーション・サービスです。ビジネス・イベント・システムには、重要なイベントのサブスクリプションを登録するためのイベント・マネージャ、およびワークフロー・プロセス内のビジネス・イベントをモデル化するイベント・アクティビティが含まれます。このサポートにより、Oracle Workflow ユーザーは、コア・アプリケーションへの介入を最小限にして、ビジネス・オブジェクトおよび E-Business 統合フローを強力かつ柔軟に扱うことができます。

- **Windows 2000 上の Oracle9i**

Windows 2000 上と Windows NT 4.0 上の Oracle9i には、いくつかの違いがあります。

関連資料：『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』の
「Windows 2000 での Oracle9i の使用」

- **Windows XP のサポート**

Oracle9i for Windows リリース 1 (9.0.1.1.1) は、Windows XP Professional で動作保証されています。

オラクル社では、様々なプラットフォームでのコンポーネントのサポート情報を提供し、互換性のあるクライアントとデータベースのバージョンをリストし、パッチと対処方法に関する情報を確認しています。

- **Workspace Manager**

Workspace Manager は、作業領域管理システムに構築された長時間トランザクション・フレームワークを提供します。Workspace Manager は、一連の短時間トランザクションと複数のデータ・バージョンを使用して、原子性および同時実行性をメンテナンスする完全な長時間トランザクション・イベントを実装します。変更は、異なる作業領域としてデータベースに格納されます。ユーザーは、更新する新しいデータ・バージョンを作成する一方で、古いデータのコピーをメンテナンスできます。長時間トランザクションの継続中の結果は永続的に格納され、同時実行性および一貫性が確保されます。

関連資料：『Oracle9i アプリケーション開発者ガイド -Workspace Manager』

Oracle9i リリース 1 (9.0.1) でサポートされないコンポーネント

リリース 8.1.7 に含まれていた次のコンポーネントは、リリース 1 (9.0.1) ではインストールできません。

- **INTERNAL データベース・ユーザー**

CONNECT INTERNAL および CONNECT INTERNAL/*password* は、Oracle9i ではサポートされていません。かわりに次のように使用します。

```
CONNECT / AS SYSDBA
```

```
CONNECT username/password AS SYSDBA
```

関連資料：『Oracle9i データベース管理者ガイド』

- **LU6.2 プロトコル・サポート**

LU6.2 プロトコルは、Oracle9i ではサポートされません。TCP/IP ベースのプロトコルに移行またはアップグレードしてください。

- **Server Manager**

Server Manager は使用できません。かわりに SQL*Plus を使用します。ほとんどの Server Manager スクリプトは SQL*Plus 環境で動作しますが、変更の必要なスクリプトもあります。

関連資料： Server Manager スクリプトの変更の詳細は、『Oracle9i データベース移行ガイド』を参照してください。

- **Windows 95**

Windows 95 は、Oracle9i ではサポートされていません。

- **大容量メモリー (VLM)**

大容量メモリー (VLM) 構成は、このリリースではサポートされていません。

Windows 版 Oracle9i クライアントの概要

この章では、Windows 版 Oracle9i クライアントの概要を示し、インストールの計画を支援します。

この章の項目は次のとおりです。

- [インストールの計画](#)
- [インストールの開始](#)

インストールの計画

ここでは、Oracle Universal Installer、インストール・タイプ、およびインストールの計画で注意すべき概念について説明します。

- [Optimal Flexible Architecture の使用方法](#)
- [Oracle Universal Installer の概要](#)
- [インストール対象の Oracle9i クライアント製品](#)

Optimal Flexible Architecture の使用方法

Oracle9i データベースをインストールおよび構成する際に、Optimal Flexible Architecture (OFA) 規格を使用することをお勧めします。OFA 規格は、高速で可用性および信頼性が高く、メンテナンスがほとんど必要ない Oracle データベースを作成するための、一連の構成ガイドラインです。最も重要な特長は、次のとおりです。

- ディレクトリやファイルの構造化された編成およびデータベース・ファイルに使用される整合性のあるネーミングにより、データベース管理が簡略化されます。
- I/O を複数のディスクへ分散することにより、同時に単一ドライブへ発行される複数の読取り / 書込みコマンドが原因のパフォーマンス・ボトルネックを防止します。
- アプリケーションを複数のディスクへ分散することにより、データベース障害から保護します。
- データベース管理者が Oracle ホーム・ディレクトリを追加、移動または削除するときに、ホーム・ディレクトリに安全にログオンできます。
- 複数のバージョンのアプリケーション・ソフトウェアを同時に実行できます。
- 本番データベースがある Oracle ホームとは別のディレクトリの Oracle ホームで、ソフトウェアのアップグレードをテストできます。

注意： Oracle Universal Installer は OFA をサポートしていますが、OFA は必須ではありません。

複数の Oracle ホームを使用するメリット

複数の Oracle ホームを使用する主なメリットは、複数のリリースの同一製品を同時に実行できることです。たとえば、本番データベースの Oracle9i リリース 2 (9.2) を実行する前に、Oracle9i リリース 2 (9.2) のデータベース・パッチをテストできます。

異なるリリースにおける複数の Oracle ホームの機能

Oracle8 リリース 8.0.4 での導入以降、複数の Oracle ホームの機能には変更が加えられました。使用しているリリースの Oracle ホームにはどのような機能があるのかを判断するのに役立ちます。

Oracle8 リリース 8.0.4 より前

Oracle8 リリース 8.0.4 より前の Oracle for Windows NT/Windows 95 のリリースは、単一 Oracle ホームしかサポートしないため、単一の Oracle ホームに Oracle 製品をインストールして実行します。リリース番号の 1 桁目または 2 桁目が異なる Oracle 製品を同じ Oracle ホームにインストールできます。たとえば、Oracle7 リリース 7.2 製品、Oracle7 リリース 7.3 製品または Oracle7 リリース 7.x、および Oracle8 リリース 8.x 製品を同じ Oracle ホームにインストールできます。ただし、リリース番号の 3 桁目が異なる複数の同一製品をインストールすることはできません。たとえば、Oracle7 リリース 7.3.2 製品と Oracle7 リリース 7.3.3 製品を同じコンピュータにインストールできません。一方のインストールによって他方は上書きされます。

Oracle8 リリース 8.0.4 からリリース 8.0.6 まで

1 つ以上のリリースの Oracle 製品を複数の Oracle ホームにインストールできます。たとえば、複数の Oracle ホームを使用して、Oracle8 リリース 8.0.x 製品、Oracle8i リリース 8.1.5 製品または Oracle7 リリース 7.x、および Oracle8 リリース 8.0.x 製品を同じコンピュータ上の異なる Oracle ホームにインストールできます。

さらに、リリース番号の 1 桁目または 2 桁目が異なる Oracle 製品を同じ Oracle ホームにインストールできます。たとえば、Oracle7 リリース 7.2 製品と Oracle8 リリース 8.0.x 製品は同じ Oracle ホームにインストールできます。

Oracle8i リリース 8.1.5 から Oracle9i リリース 2 (9.2) まで

これらのリリースには、Oracle8 リリース 8.0.4 からリリース 8.0.6 までと同じ複数の Oracle ホーム機能が備わっていますが、次の制限事項が適用されます。

- Oracle8i リリース 8.1.5 から Oracle9i リリース 2 (9.2) までのリリースは、旧インストーラを使用して作成した Oracle ホームにインストールできません。(旧インストーラは Oracle Installer という名前で、Oracle8i リリース 8.1.5 より前のインストールに使用されていました。新しい Java ベースのインストーラは Oracle Universal Installer という名前です。)
- Oracle8i リリース 8.1.5 より前のリリースは、Oracle8i リリース 8.1.5 から Oracle9i リリース 2 (9.2) までのリリースで作成された Oracle ホームにインストールできません。
- Oracle8i リリース 8.1.5 から Oracle9i リリース 2 (9.2) までのリリースは、別々の Oracle ホームにインストールする必要があります。各 Oracle ホームには、複数のリリースをインストールできません。

関連資料：『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』の「複数の Oracle ホームおよび Optimal Flexible Architecture」

Oracle Universal Installer の概要

Oracle Universal Installer は、CD から Oracle コンポーネントをインストールするための Java ベースの Graphical User Interface (GUI) です。Oracle Universal Installer には、次の機能があります。

- コンポーネントおよびコンポーネント・セットのインストール
- Web ベースのインストール
- National Language Support (NLS) およびグローバリゼーション・サポート
- 分散インストールのサポート
- レスポンス・ファイルを使用した（対話を必要としない）サイレント・インストール
- インストール済コンポーネントの削除
- 複数の Oracle ホームのサポート

関連項目： Web ベース・インストールおよびサイレント・インストールの詳細は、[付録 B「拡張インストール」](#)を参照してください。

Oracle Universal Installer の制限事項

- (リリース 7.x やリリース 8.0.x とともに出荷された) 旧 Oracle Installer を使用した、Oracle9i リリース 2 (9.2) の Oracle ホーム・ディレクトリへのコンポーネントのインストールは、サポートされません。同様に、リリース 2 (9.2) のコンポーネントは、リリース 7.x、8.0.x または 8.1.5 の Oracle ホームにインストールできません。
- Oracle Universal Installer により、Java Runtime Environment (JRE) の Oracle バージョンが自動的にインストールされます。このバージョンは、Oracle Universal Installer およびいくつかの Oracle アシスタントの実行に必要です。
- Oracle Universal Installer は、Oracle 製品のインストールを非対話形式で実行でき、オプションでサイレント・モードに設定できます。サイレント・モードはバックグラウンド・プロセスであるため、ウィンドウに表示されません。
- Oracle Universal Installer は、Web ベースのインストールを実行できます。このインストーラの機能の詳細は、『Oracle Universal Installer Concepts Guide』を参照してください。

関連資料：『Oracle Universal Installer Concepts Guide』

このガイドは、Oracle9i データベース・ドキュメント CD に含まれており、インストール時に自動的にハード・ディスク・ドライブにインストールされます。このマニュアルを表示するには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle Installation Products」→「Universal Installer Concepts Guide」を選択します。

インストール対象の Oracle9i クライアント製品

Oracle9i クライアントは、フロントエンド・データベース・アプリケーションで、1 つ以上のアプリケーション・サーバーを介してデータベースに接続します。3 つのクライアント・インストール・タイプがあります。

- **管理者：** このタイプを選択した場合、Oracle Universal Installer は、エンタープライズ管理ツール、ネットワークング・サービス、ユーティリティおよび基本クライアント・ソフトウェアを含め、Oracle Enterprise Manager コンソールをインストールします。
- **ランタイム：** このタイプを選択した場合、Oracle Universal Installer はネットワーク・サービスおよびサポート・ファイルをインストールします。
- **カスタム：** このタイプを選択した場合、Oracle Universal Installer から、「管理者」および「ランタイム」で使用可能なコンポーネントのうちインストールする個々のコンポーネントを選択するよう求められます。

インストールの開始

インストールを開始する準備ができました。迅速に作業を開始するには、次に示された順序で各章を参照し、その指示に従います。

目的	参照先
次の事項のインストール要件を調べる。 <ul style="list-style-type: none">■ 個々のインストール・タイプ■ 個々のコンポーネント■ 単一 Oracle ホーム・コンポーネント■ ネットワーク・プロトコル	第 2 章「インストール前の要件」
作成方法および Oracle Net クライアント / サーバー環境の構成方法を選択する。	第 3 章「Oracle Net Services 構成の方法の選択」
Oracle コンポーネントをインストールおよび削除する。	第 4 章「Oracle コンポーネントのインストール」
Oracle コンポーネントを非対話形式でインストールする。	B-2 ページの「非対話形式モードでの Oracle コンポーネントのインストール」

インストール前の要件

この章では Oracle9i クライアントのインストールの要件を説明します。

この章の項目は次のとおりです。

- 単一 Oracle ホーム・コンポーネント
- クライアント・コンポーネントのシステム要件
- 個々のコンポーネントの必須要件
- アプリケーションのリンクおよび再リンクの方針

単一 Oracle ホーム・コンポーネント

ほとんどの Oracle コンポーネントは、同じコンピュータに複数回インストールできます。ただし、次のコンポーネントは、各コンピュータに 1 回しかインストールできません。

- Oracle Objects for OLE
- Oracle Provider for OLE DB

注意： すべての Oracle7 コンポーネントおよびすべての Oracle8 リリース 8.0.3 コンポーネントは、単一 Oracle ホーム製品です。

関連項目： 1-2 ページの「[Optimal Flexible Architecture の使用方法](#)」

これらのコンポーネントを 2 回目にインストールしようとすると、Oracle Universal Installer は、これらの製品が別の Oracle ホームにインストール済であることを検出し、これらの製品をインストール・プロセスから自動的に削除します。

C:\Program Files\Oracle\Inventory\logs ディレクトリの installActions.log ファイルに次の情報が記録されます。

product_name は単独の Oracle ホーム製品です。すでに *currently_installed_location* にインストールされています。

インストールを実行しているときに、1 つ以上の単一 Oracle ホーム・コンポーネントが現行のセッションでインストールできないことに気づいた場合は、これらのコンポーネントのいずれか、またはこれらのコンポーネントの古いバージョンが、別の Oracle ホームにインストールされていないかをチェックします。これらのコンポーネントを現在選択している Oracle ホームにインストールする場合は、まず競合するバージョンを削除します。

関連項目： これらのコンポーネントのインストール・タイプは、[付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#) を参照してください。

クライアント・コンポーネントのシステム要件

次の項に、インストール・タイプごとのシステム要件を示します。各タイプには一連の個々のコンポーネントが含まれています。一部のコンポーネントには、インストール前に満たす必要のある要件もあります。これらの要件は、2-7 ページの「[個々のコンポーネントの必須要件](#)」で説明します。

- [FAT および NTFS ファイル・システムのシステム要件](#)
- [Oracle9i クライアントのシステム要件](#)
- [コンポーネントのサポート](#)

重要： Oracle9i クライアントの各インストール・タイプのハード・ディスク要件には、オペレーティング・システムがインストールされているパーティションに Java Runtime Environment (JRE) および Oracle Universal Installer をインストールするために必要な 32MB が含まれています。十分な領域が検出されないと、インストールは失敗し、エラー・メッセージが表示されます。

FAT および NTFS ファイル・システムのシステム要件

この章では、File Allocation Table (FAT) および NT File System (NTFS) の両方のファイル・システムのシステム要件を示します。両方のファイル・システムは領域割当てが異なるので、ハード・ディスク要件は異なります。

Windows NT、Windows 2000 および Windows XP Professional には NTFS、Windows 98 には FAT32 を使用することをお勧めします。

関連項目： 5-2 ページの「[NTFS ファイル・システムと Windows レジストリ権限](#)」

注意： この項に記載されている FAT および NTFS システム要件を確認してください。これらの値は、Oracle Universal Installer の「サマリー」ウィンドウでレポートされるハード・ディスク値よりも正確です。これらのウィンドウには、次の情報が含まれていません。

- 正確な FAT ディスク容量の値
 - データベースの作成に必要な領域
 - ハード・ディスク・ドライブ上に展開される圧縮ファイルのサイズ
-
-

Oracle9i クライアントのシステム要件

次の内容について説明します。

- [オペレーティング・システムおよび Service Pack の要件](#)
- [プロトコル・サポート](#)
- [プロセッサ要件](#)
- [ハードウェア要件](#)
- [領域要件](#)
- [Web ブラウザの要件](#)

関連項目： 2-7 ページの「[個々のコンポーネントの必須要件](#)」

オペレーティング・システムおよび Service Pack の要件

最上位の Oracle9i クライアント・コンポーネントは、Windows 98、Windows NT、Windows 2000 および Windows XP Professional でサポートされています。Windows NT では Service Pack 5、Windows 2000 では Service Pack 1 が必要です。

関連項目： 2-6 ページの「[コンポーネントのサポート](#)」

プロトコル・サポート

[Oracle Net Foundation レイヤー](#)は、Oracle プロトコル・サポートを使用して、次の業界標準ネットワーク・プロトコルと通信します。

- TCP/IP
- Secure Sockets Layer (SSL) 付き TCP/IP
- Named Pipes

プロセッサ要件

次のプロセッサ要件は、Oracle9i クライアントの各インストール・タイプに適用されます。

- 動作可能プロセッサ： Pentium 166MHz
- 推奨プロセッサ： Pentium 266MHz

ハードウェア要件

最上位の Oracle9i Client コンポーネントに必要な RAM は 128MB で、推奨 RAM サイズは 256MB です。

領域要件

「カスタム」の場合の要件は、インストール時に選択されたコンポーネントに依存します。

FAT 領域要件を表 2-1 に示し、NTFS 領域要件を表 2-2 に示します。

表 2-1 FAT のハード・ディスク領域要件

インストール・タイプ	システム・ドライブ	Oracle ホーム・ドライブ
管理者	90MB	1.5GB
ランタイム	50MB	400MB

表 2-2 NTFS のハード・ディスク領域要件

インストール・タイプ	システム・ドライブ	Oracle ホーム・ドライブ
管理者	90MB	790MB
ランタイム	50MB	150MB

Web ブラウザの要件

次の Web ブラウザは、ブラウザベースの Oracle Enterprise Manager のコンソール、Enterprise Manager Repository Web Site および iSQL*Plus に対してサポートされています。

- Netscape Navigator 4.76 以上
- Microsoft Internet Explorer 5.0 以上
- Microsoft Internet Explorer 6.0 (Windows XP では必須)

関連項目：

- 2-6 ページの「[コンポーネントのサポート](#)」を参照してください。
- 各インストール・タイプでインストールされる個々のコンポーネントのリストは、[付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#)を参照してください。

コンポーネントのサポート

オラクル社では、様々なプラットフォームでのコンポーネントのサポート情報を提供し、互換性のあるクライアントとデータベースのバージョンをリストし、パッチと対処方法に関する情報を確認しています。

次の項では、Windows Terminal Server および Windows XP でサポートされていないクライアント・コンポーネントおよび機能をリストします。

- [Windows Terminal Server](#)
- [Windows XP](#)

Windows Terminal Server

Oracle は、Windows 2000 Server、Windows 2000 Advanced Server および Windows 2000 Datacenter Server 上で Terminal Services をサポートします。

次の製品および機能は、Windows Terminal Server または Windows XP Remote Desktop ではサポートされていません。

- Oracle Migration Workbench
- Oracle Services for Microsoft Transaction Server

関連資料：

- Terminal Server の詳細は、<http://www.microsoft.com/japan/> の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。
- 最新の Terminal Server のサポート情報は、リリース・ノートを参照してください。

Windows XP

次のコンポーネントは、Windows XP ではサポートされません。

- DCE Adapter Support
- Entrust PKI Support
- Generic Connectivity
- NCIPHER Accelerator Support

個々のコンポーネントの必須要件

次のコンポーネントには、インストール前の必須要件があります。

- [Oracle Advanced Security](#)
- [Oracle Workflow](#)
- [Active Directory との Oracle9i の統合](#)

Oracle Advanced Security

Oracle コンポーネントで認証サポートを使用するには、ハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たします。また、Oracle Advanced Security を SSL および PKI とともに使用するには、Oracle9i Database コンポーネント CD で提供されている Oracle Internet Directory などの Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリが事前にインストールされている必要があります。

関連資料：『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』

Oracle Workflow

必要なハードウェアおよびソフトウェアが構成されていることを確認します。

関連資料：『Oracle Workflow Client インストレーション・ノート』

Active Directory との Oracle9i の統合

正常に統合するためのインストール前の要件を実行する必要があります。

関連資料：『Oracle9i for Windows セキュリティおよびネットワーク統合ガイド』の「Active Directory での Oracle9i ディレクトリ・サーバー機能の使用方法」

アプリケーションのリンクおよび再リンクの方針

クライアント・ソフトウェアをアップグレードして、現在のデータベースと一致させることをお勧めします。たとえば、Oracle データベースをリリース 2 (9.2) にアップグレードした場合、クライアント・ソフトウェアも同様にリリース 2 (9.2) にアップグレードすることをお勧めします。データベースおよびクライアントのソフトウェアのリリース番号を同じにしておくと、アプリケーションの安定性を最大限に確保できます。また、Oracle クライアントの最新ソフトウェアには、以前のリリースでは使用できなかった追加機能およびパフォーマンス強化が提供されています。

関連資料： クライアント・ソフトウェアの機能リリース・アップグレードを実行するときのアプリケーションのリンクおよび再リンクに関するルールは、『Oracle9i データベース移行ガイド』を参照してください。

Oracle Net Services 構成の方法の選択

この章では、インストール中に使用できる Oracle Net Services の構成方法を説明します。少なくとも、作成とネットワーキングの方法について理解してから、インストールを実行する必要があります。

この章の項目は次のとおりです。

- [ネットワークの構成方法](#)
- [クライアント・ネットワークの構成](#)

関連資料：

- この章で使用される用語の定義は、「[用語集](#)」を参照してください。
- この章のネットワーキング概念の詳細は、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。

ネットワークの構成方法

Oracle Universal Installer は、インストール中に Oracle Net Services ネットワーク環境の構成方法をいくつか提供しています。

インストール中に選択する方法は、次の条件に依存します。

- ネットワーク構成に関するユーザー自身の知識
- ネットワーク環境の要件

インストールを開始する前に、これらの方法を理解する必要があります。この章の情報に目を通すことで、必要に応じた最善のネットワーク環境を最初から構成することが可能です。

Oracle Net Services コンポーネントは、いくつかのインストール・タイプでインストールされます。表 3-1 のインストール・タイプで、インストール中にネットワーク構成に関して入力が必要となるかについて確認してください。自動的に作成される情報および入力が必要な情報に関する詳細は、この章の後述の項を参照してください。

表 3-1 クライアントの各インストール・タイプに必要なユーザー入力

インストール・タイプ	Oracle Net Services の構成に必要なユーザー入力量
Oracle9i Client ¹	
■ 管理者	最小
■ ランタイム	最小
■ カスタムで次を選択：	
Oracle Net Services	最小または多量 ²

¹ Oracle9i データベースは、Oracle9i Client コンポーネント CD からはインストールできません。

² 「カスタム」インストール・タイプで選択すると、最小限のユーザー入力を必要とする構成を作成するか、ユーザー入力を多量に必要とする構成を作成するかを尋ねられます。詳細は、3-3 ページの「クライアント・ネットワークの構成」を参照してください。

クライアント・ネットワークの構成

Oracle Net Configuration Assistant は、Oracle クライアントが Oracle9i データベースに接続できるような Oracle Net Services 環境の構成を可能にするツールです。Oracle Net Configuration Assistant は、ほとんどのインストール・タイプで Oracle Universal Installer から自動的に起動され、スタンドアロン・ツールとして手動でも起動できます。

選択したインストール・タイプに応じて、Oracle Net Configuration Assistant は、次のいずれかの方法でネットワークを構成します。

- 最小限のユーザー入力で標準のデータベース接続用にネットワークを自動的に構成
- 多量のユーザー入力を要求して、カスタマイズされたネットワークを作成

構成は、デフォルトの %ORACLE_HOME%\network\admin ディレクトリにあるネットワーク構成ファイルを作成、変更します。

関連資料：

- スタンドアロン・モードでの Oracle Net Configuration Assistant の実行については、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』または「Oracle Net Configuration Assistant」オンライン・ヘルプを参照してください。
- スタンドアロン・モードでの Oracle Net Configuration Assistant の起動手順は、『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』の「データベース・ツールの概要」を参照してください。

クライアント・ネットワークの構成

次の表に、クライアントのインストール・タイプで作成されるネットワーク構成の種類と、必要とされるユーザー入力を示します。表 3-2 および表 3-3 を確認して、要件やネットワーク構成の知識に最も適したネットワーク構成を特定してください。

表 3-2 Net Services 構成 - 「管理者」または「ランタイム」

実行手順	結果
1. 「Oracle9i Client」を選択します。	Oracle Net Configuration Assistant は、ディレクトリ・サーバーを使用するかどうかの選択に基づいて、 ディレクトリ・ネーミング ・メソッドまたは ローカル・ネーミング ・メソッドを構成するよう要求します。
2. 「管理者」または「ランタイム」を選択します。	
	ディレクトリ・サーバーの使用を選択する場合は、Oracle Net Configuration Assistant により、ディレクトリ・サーバーの使用構成を入力するよう要求されます。ディレクトリ・サーバーの使用を選択しない場合は、Oracle Net Configuration Assistant により、tnsnames.ora ファイルにネット・サービス名を構成するよう要求されます。
	続いて Oracle Net Configuration Assistant が次のファイル内に情報を構成して、クライアント環境を自動的に作成します。
	<ul style="list-style-type: none">■ sqlnet.ora ファイル クライアントのドメインをデフォルト・ドメイン（コンピュータが置かれている TCP/IP ドメイン）として構成します。このドメインは、接続文字列で指定される未修飾のネット・サービス名に自動的に付加されます。 クライアントが名前を接続記述子に解決するために使用するネーミング・メソッドを構成します。■ tnsnames.ora ファイル ローカル・ネーミング・メソッドが選択された場合は、データベースに接続するためのネット・サービス名を構成します。■ ldap.ora ファイル ディレクトリ・サーバーへのアクセスを構成します。

表 3-3 Net Services 構成 - 「カスタム」

実行手順	結果
1. 「Oracle9i Client」を選択します。	<p>Oracle Net Configuration Assistant により、名前を Oracle9i データベースへの接続用の接続記述子に解決するネーミング・メソッドの構成を要求されます。Oracle Net Configuration Assistant には、1 つ以上のネーミング・メソッド（ディレクトリ・ネーミング、ローカル・ネーミング、Oracle Names、ホスト・ネーミング、外部ネーミング）を選択するオプションがあります。また、「標準構成の実行」オプションを使用することもできます。</p> <p>「標準構成の実行」オプションは、既存のディレクトリ使用構成に基づいて、ローカル・ネーミング・メソッドまたはディレクトリ・ネーミング・メソッドを自動的に選択します。</p> <p>選択内容に応じて、追加情報を入力するよう要求されます。ローカル・ネーミング・メソッドの場合は、使用するネット・サービス名、データベース・サービス名、ネットワーク・プロトコルの入力要求されます。デフォルトでは、データベース・サービス名はグローバル・データベース名です。</p> <p>続いて Oracle Net Configuration Assistant が次のファイル内に情報を構成して、Oracle Net クライアント環境を自動的に作成します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ sqlnet.ora ファイル <p>オペレーティング・システム認証による接続（OPSS\$）を要求するようクライアントを構成します。詳細は、『Oracle9i for Windows セキュリティおよびネットワーク統合ガイド』の「Windows のシステム固有の認証の概要」を参照してください。</p> <p>クライアントのドメインをデフォルト・ドメイン（コンピュータが置かれている TCP/IP ドメイン）として構成します。このドメインは、接続文字列で指定される未修飾のネット・サービス名に自動的に付加されます。</p> <p>クライアントが名前を接続記述子に解決するために使用するネーミング・メソッドを構成します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ tnsnames.ora ファイル <p>ローカル・ネーミング・メソッドが選択された場合は、データベースに接続するためのネット・サービス名を構成します。</p>
2. 「カスタム」を選択します。	
3. 「Oracle Net Services」を選択します。	

Oracle コンポーネントのインストール

この章では、コンポーネント CD から Oracle コンポーネントをインストールする方法を説明します。

この章の項目は次のとおりです。

- [Windows と UNIX でのインストールの相違](#)
- [Oracle9i をインストールする前に](#)
- [Oracle9i をインストールする前に](#)
- [Oracle9i のインストールの開始](#)
- [インストール・タイプの選択](#)
- [Oracle のコンポーネントとサービスの削除](#)

関連項目：

- 1-2 ページの「[Optimal Flexible Architecture の使用方法](#)」を参照してください。
- 1-5 ページの「[Oracle Universal Installer の制限事項](#)」を参照してください。
- レスポンス・ファイルの使用や、様々な言語での Oracle コンポーネントのインストールおよび使用などの詳細は、[付録 B「拡張インストール」](#)を参照してください。

Windows と UNIX でのインストールの相違

UNIX 環境で Oracle コンポーネントをインストールした経験のあるデータベース管理者は、UNIX で必要な手動セットアップ・タスクの多くが、Windows では必要ないことに注意する必要があります。表 4-1 に、UNIX と Windows でのインストールの主な相違点を示します。

表 4-1 UNIX と Windows でのインストールの主な相違点

対象	UNIX プラットフォーム	Windows プラットフォーム
PATH、ORACLE_BASE、ORACLE_HOME、ORACLE_SID などの環境変数	手動による設定が必要	Oracle Universal Installer に よりレジストリに設定
データベース管理者の DBA アカウント	手動による作成が必要	Oracle Universal Installer に より作成
Oracle Universal Installer を実行す るためのアカウント	手動による作成が必要	不要
Oracle コンポーネントの インストールおよびアップグレード 専用のアカウント	手動による作成が必要	不要

関連資料：『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』の
「Oracle9i の Windows と UNIX での違い」

Oracle9i をインストールする前に

Oracle コンポーネントをインストールする前に、次のタスクを実行します。

1. 第 2 章「インストール前の要件」に示されている、該当のシステムおよびコンポーネント要件を確認し、満たしてから、インストールを開始してください。
2. 「Administrators」グループのメンバーとして、Oracle コンポーネントをインストールするコンピュータにログオンします。
3. 環境変数 ORACLE_HOME が存在する場合は、これを削除します。環境変数の削除の詳細は、Microsoft オンライン・ヘルプを参照してください。

注意： 環境変数 ORACLE_HOME は、レジストリに自動的に設定されます。
この変数を手動で設定した場合は、インストールを実行できません。

4. 既存の Oracle9i リリース 1 (9.0.1) またはリリース 2 (9.2) の Oracle ホームにインストールする場合は、すべての Oracle サービスを停止します。
 - Windows NT では、「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択します。
 - Windows 2000 では、「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択します。
 - Windows XP では、「スタート」→「コントロール パネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択します。
 - a. 「開始」の状態の Oracle サービス（「Ora」で始まる名前）がある場合は、そのサービスを選択します。
 - b. Windows NT では「停止」を選択し、Windows 2000 では「操作」→「停止」を選択します。

特に、Oracle リスナー・サービスが停止していることを確認してください。このサービスの名前は、リリース 8.1 のデータベースでは OracleHOME_NAME_TNSListener、リリース 8.0 のデータベースでは OracleTNSListener80、リリース 7.3 のデータベースでは OracleTNSListener です。
 - c. 「閉じる」を選択して、「サービス」ウィンドウを閉じます。
5. 「Oracle9i のインストールの開始」の項に進みます。

Oracle9i のインストールの開始

（リリース 7.x やリリース 8.0.x とともに出荷された）旧 Oracle Installer を使用した、Oracle9i リリース 2 (9.2) の Oracle ホーム・ディレクトリへのコンポーネントのインストールは、サポートされません。同様に、リリース 2 (9.2) のコンポーネントは、リリース 7.x、8.0.x または 8.1.x の Oracle ホームにインストールできません。

関連項目：

- 1-2 ページの「インストールの計画」
- 付録 B「拡張インストール」

CD から Oracle9i コンポーネントをインストールするには、次のようにします。

1. 最初のコンポーネント CD を挿入します。

「Autorun」ウィンドウが自動的に表示されます。「Autorun」ウィンドウが表示されない場合は、次の操作を行います。

- a. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- b. 次のコマンドを入力します。

< ドライブ文字 >:¥autorun¥autorun.exe

「Autorun」ウィンドウが表示されます。

2. 「Autorun」ウィンドウから「インストールを開始」を選択します。

「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

3. 「次へ」を選択します。

「ファイルの場所」ウィンドウが表示されます。「ソース」フィールド内のディレクトリ・パスは変更しないでください。このパスは、インストール・ファイルの場所を示します。

4. 「インストール先」フィールドに、Oracle コンポーネントをインストールする Oracle ホーム名とディレクトリ・パスを入力します。

注意： Oracle9i リリース 2 (9.2) ソフトウェアは、Oracle8i 以下のソフトウェアが格納されている既存の Oracle ホームにはインストールしないでください。

Oracle ホーム名の長さは最大 16 文字で、英数字とアンダースコアのみ使用できます。空白を含めることはできません。Oracle Universal Installer では、数字で始まる文字を「名前」フィールドに入力できません。デフォルトのディレクトリ・パスは、< 空き領域が最大のドライブ >:¥oracle¥ora92 です。

5. 「次へ」を選択します。

「インストール・タイプ」ウィンドウが表示されます。「[インストール・タイプの選択](#)」の項に進みます。

インストール・タイプの選択

ニーズを最もよく満たすインストール・タイプを表 4-2 から選択します。「次へ」を選択します。選択に基づいて、次の項のいずれかに進みます。

表 4-2 最上位コンポーネント

最上位コンポーネント	含まれるインストール・タイプ
Oracle9i Client	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle9i Client の「管理者」または「ランタイム」インストール ■ Oracle9i Client の「カスタム」インストール

関連項目：

- 1-2 ページの「[インストールの計画](#)」を参照してください。
- 選択するインストール・タイプが不明な場合は、[付録 A「インストール可能な個々のコンポーネント」](#)を参照してください。

Oracle9i Client の「管理者」または「ランタイム」インストール

クライアントの「管理者」または「ランタイム」インストール・タイプを選択すると、「サマリー」ウィンドウが表示されます。

1. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。
2. 選択したコンポーネントがインストールされるのを待ちます。

「構成ツール」ウィンドウが表示され、Oracle Net Configuration Assistant が起動します。現在指定されている Oracle ホームに Oracle Net Client リリース 2 (9.2) がインストールされていない場合は、Oracle Net Configuration Assistant から Oracle9i データベースへのクライアント・アクセスの構成方法を選択するよう要求されます。

関連項目：

- コンピュータの RAM が 128MB の場合は、4-2 ページの「[Oracle9i をインストールする前に](#)」を参照してください。
 - 3-4 ページの「[クライアント・ネットワークの構成](#)」を参照してください。
3. Oracle9i データベースへのクライアント・アクセスの構成方法を選択します。選択の詳細は、オンライン・ヘルプおよび 3-4 ページの「[クライアント・ネットワークの構成](#)」を参照してください。

「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。

4. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

「管理者」インストール・タイプを選択した場合は、「Enterprise Manager コンソール、スタンドアロン」が表示されます。

注意： Windows 98 への Oracle の最初のインストール後は、コンピュータを再起動します。その後のインストールでは、Oracle ホームを変更した場合にのみ停止および再起動する必要があります。

関連項目：

- インストール・セッションのサマリーは、4-8 ページの「[インストール・セッション・ログの確認](#)」を参照してください。
- 第 5 章「[インストール後の構成タスク](#)」を参照してください。
- Oracle9i Client の各インストール・タイプでインストールされるコンポーネントのリストは、A-2 ページの「[Oracle9i Client のコンポーネント](#)」を参照してください。

Oracle9i Client の「カスタム」インストール

Oracle9i Client の「カスタム」インストール・タイプを選択した場合は、「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウが表示されます。「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウの「インストール状況」列には、インストールに使用できるすべてのコンポーネントの状態が表示されます。

1. インストールする各コンポーネントのチェックボックスを選択します。

注意： チェック・マークの付いたコンポーネントのみがインストールされます。

2. インストールするコンポーネントを選択し、「次へ」を選択します。

「コンポーネントの場所」ウィンドウが表示されます。ここで、コンポーネントをインストールする場所を選択できます。

3. デフォルトの場所を受け入れるには、「次へ」を選択します。それ以外の場合は、リスト・ボックスからコンポーネントを選択し、デフォルトの場所を変更します。

4. 表 4-3 に示されたコンポーネントのいずれかを選択した場合は、要求に応じて適切な応答を入力します。大部分のコンポーネントは、追加情報の入力を要求されることなくインストールされることに注意してください。

表 4-3 Oracle9i/Client を「カスタム」でインストールした場合のコンポーネントからの要求

選択したオプション	要求される内容
Oracle Net Services	現在指定されている Oracle ホームに Oracle Net Services がインストールされていない場合は、Oracle9i データベースにアクセスするようクライアントを構成します。 関連項目： 実行される構成手順の詳細は、3-4 ページの「クライアント・ネットワークの構成」を参照してください。
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	<ul style="list-style-type: none">■ インストール後、現在インストールされていない場合は Microsoft Transaction Server をインストールします。■ Oracle MTS Recovery Service がリスニングするポートを入力します。

「サマリー」ウィンドウが表示されます。

5. 領域要件を検討して十分なディスク領域があることを確認し、「インストール」を選択します。
6. 選択したコンポーネントがインストールされ、構成ツールが実行を完了するまで待ちます。
- 「インストールの終了」ウィンドウが表示されます。
7. 「終了」を選択して Oracle Universal Installer を終了するか、「次のインストール」を選択して別のコンポーネントをインストールします。

Enterprise Manager のインストールを選択した場合は、「Enterprise Manager コンソール、スタンドアロン」が表示されます。

注意： Windows 98 への Oracle の最初のインストール後は、コンピュータを再起動します。その後のインストールでは、Oracle ホームを変更した場合にのみ停止および再起動する必要があります。

関連項目：

- インストール・セッションのサマリーは、4-8 ページの「[インストール・セッション・ログの確認](#)」を参照してください。
- [第5章「インストール後の構成タスク」](#)を参照してください。
- Oracle9i Client の各インストール・タイプでインストールされるコンポーネントのリストは、A-2 ページの「[Oracle9i Client のコンポーネント](#)」を参照してください。

インストール・セッション・ログの確認

インストーラを初めて実行したときに、<システム・ドライブ>:\Program Files\Oracle\Inventory\logs ディレクトリが作成されます。インストールされたコンポーネントのインベントリと実行されたインストール・アクションは、このディレクトリに保存されます。

ログ・ファイル名の形式は installActionsdate_time.log（たとえば、installActions2001-07-14_09-00-56AM.log など）です。

Oracle Universal Installer の任意のウィンドウで「インストール済の製品」を選択すると、インストール済のコンポーネントのリストを表示できます。インストールされたプログラムのウィンドウが表示されます。

注意： Inventory ディレクトリやその内容を、削除または手動で変更しないでください。このような操作を行った場合、インストールする製品をインストーラがシステムへ配置できなくなります。

Oracle のコンポーネントとサービスの削除

この項では、Oracle のコンポーネント、ユーティリティおよびサービスの削除方法を説明します。

注意： Oracle JVM を削除すると、Oracle Universal Installer は、Oracle JVM に依存しているデータベースおよびその他の製品をシステムから削除します。

次の内容について説明します。

- [Windows プラットフォームでの Oracle サービスの停止](#)
- [Oracle Universal Installer によるコンポーネントの削除](#)
- [Windows NT、Windows 2000 および Windows XP のレジストリからの Oracle キーの削除](#)
- [Windows 98 のレジストリからの Oracle キーの削除](#)

注意： 手動によるコンポーネントの削除は、インストールの途中で Oracle Universal Installer を終了する場合のみ、行ってください。次に例を示します。

- 「取消」を選択した場合
- コンピュータの電源をオフにした場合
- インストールが完了していない場合（つまり、必要な構成ツールが最後まで実行されていない場合）

この場合、Oracle Universal Installer はインストールをインベントリに登録しません。ただし、ファイルは Oracle ホームにコピーされている可能性があります。ファイルを手動で削除して、インストールを再開します。

Windows プラットフォームでの Oracle サービスの停止

まず Windows の Oracle サービスを停止してから、Oracle コンポーネントまたはレジストリ・エントリの削除を実行する必要があります。

Windows のサービスを停止するには、次のようにします。

1. 「コントロール パネル」の「サービス」を開きます。
 - Windows NT では、「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択します。
 - Windows 2000 では、「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択します。
 - Windows XP では、「スタート」→「コントロール パネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択します。
2. 「開始」の状態の Oracle サービス（Oracle または Ora で始まる名前）を選択し、「停止」を選択します。
3. 「閉じる」を選択して、「サービス」ウィンドウを閉じます。
4. 「コントロール パネル」を閉じます。

Oracle Universal Installer によるコンポーネントの削除

ここでは、Oracle コンポーネントを手動で削除するかわりに、Oracle Universal Installer を使用して削除（インストーラ・インベントリから削除）する方法を説明します。

手動で（たとえば、Windows エクスプローラやコマンド・プロンプトでディレクトリ構造を削除して）Oracle ホームを削除しないでください。Oracle ホームのコンポーネントが、Oracle Universal Installer インベントリに登録されたままになります。その後、同じ Oracle ホームにインストールしようとする、すでにインストールされていると判断されるため、選択された一部またはすべてのコンポーネントはインストールされません。

Oracle Universal Installer は、インストール中に Oracle コンポーネント用の Windows サービスを作成します。ただし、Oracle Universal Installer は、作成したサービスを削除しません。

Oracle Universal Installer でコンポーネントを削除するには、次のようにします。

1. 4-10 ページの「[Windows プラットフォームでの Oracle サービスの停止](#)」に示されている手順に従ってください。
2. 「スタート」→「プログラム」→「Oracle Installation Products」→「Universal Installer」を選択します。
Oracle Universal Installer の「ようこそ」ウィンドウが表示されます。
3. 「製品の削除」ボタンを選択します。
「インベントリ」ウィンドウが表示されます。
4. 削除するコンポーネントが見つかるまで、インストール済のコンポーネントのツリーを展開します。
5. 削除するコンポーネントのボックスを選択します。
6. 「削除」を選択します。
「確認」ウィンドウが表示されます。
7. 「はい」を選択して、選択したコンポーネントを削除します。

注意： コンポーネントによっては、削除すると他のコンポーネントが正しく機能しなくなる可能性があることを示すメッセージが表示されます。

コンポーネントがコンピュータから削除されます。「インベントリ」ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、削除されたコンポーネントは表示されていません。

8. 「閉じる」を選択して、「インベントリ」ウィンドウを閉じます。
9. 「終了」を選択して、Oracle Universal Installer を終了します。

Windows NT、Windows 2000 および Windows XP のレジストリからの Oracle キーの削除

まれに、Oracle コンポーネントを完全にコンピュータから削除することで、深刻なシステム上の問題を修正する必要がある場合があります。

コンピュータからの Oracle コンポーネントの全削除は最後の手段として、またシステムから Oracle コンポーネントをすべて削除する場合にのみ行ってください。

Oracle Universal Installer は、Oracle Net Configuration Assistant、OiD Configuration Assistant および Database Configuration Assistant で作成されたサービスは削除しません。また、他のいくつかのレジストリ・キーは削除されません。

注意： ORADIM ユーティリティを使用して、インスタンスおよびサービスを手動で削除することもできます。『Oracle9i Database for Windows 管理者ガイド』の「インストール後のデータベース作成」を参照してください。

注意： Microsoft レジストリ エディタは、自己責任において使用してください。レジストリ エディタの使用を誤ると、重大な問題につながる可能性があります。オペレーティング・システムの再インストールが必要になる場合があります。

Windows NT、Windows 2000 および Windows XP で Oracle Net Service レジストリ・エントリを削除するには、次のようにします。

1. 「Administrators」グループのメンバーとしてログオンします。
2. 4-10 ページの「[Windows プラットフォームでの Oracle サービスの停止](#)」に示されている手順に従ってください。
3. コマンド・プロンプトでレジストリ エディタを起動します。
`C:\> regedt32`
4. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services に移動して OracleHOME_NAME\TNSListener レジストリ・エントリを削除します。Oracle Universal Installer が自動的にその他すべての Oracle Net Services を削除します。
5. レジストリ エディタを終了します。

Windows NT、Windows 2000 および Windows XP で、すべての Oracle コンポーネントをコンピュータから削除するには、次のようにします。

注意： この手順では、コンピュータからすべての Oracle コンポーネント、サービスおよびレジストリ・エントリが削除されます。さらに、`%ORACLE_BASE%\oradata\%DB_NAME%` の下のデータベース・ファイルもすべて削除されます。レジストリ・エントリを削除する際は、特に気を付けてください。間違ったエントリを削除すると、システムに不具合が生じる場合があります。

1. 「Administrators」グループのメンバーとしてログオンします。
2. 4-10 ページの「[Windows プラットフォームでの Oracle サービスの停止](#)」に示されている手順に従ってください。
3. コマンド・プロンプトでレジストリ エディタを起動します。
`C:\> regedt32`
4. HKEY_CLASSES_ROOT に移動します。
5. Oracle、ORA または ORCL で始まるキーを削除します。
6. HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE に移動します。
7. ORACLE および Apache Group キーを削除します。
8. HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services に移動します。
9. ORACLE で始まるすべてのキーを削除します。
10. HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Eventlog\Application に移動します。
11. ORACLE で始まるすべてのキーを削除します。
12. HKEY_CURRENT_USER に移動します。
13. ORACLE を削除します。
14. HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\ORACLE に移動します。
15. Oracle または ORCL で始まるキーがある場合は削除します。
16. Oracle キーがある場合は削除します。
17. レジストリ エディタを終了します。
18. コンピュータを再起動します。

システム変数パスの更新

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「システム」→「環境」タブを選択します。
2. システム環境変数パスを選択し、Path 変数を変更します。
3. すべての Oracle エントリをパスから削除します。たとえば、Oracle によって JRE がインストールされている場合は、%ORACLE_HOME%\BIN パスおよび JRE パスを削除します。次のようなパスがある可能性があります。

```
C:\oracle\ora92\bin;C:\program files\oracle\jre\1.1.8\bin
```

4. 「コントロール パネル」を閉じます。

「スタート」メニューからの Oracle の削除

1. <システム・ドライブ>:\winnt\profiles\all users\スタート メニュー\プログラムに移動します。
2. 次のアイコンを削除します。
 - Oracle - HOME_NAME
 - Oracle Installation ProductsHOME_NAME は、以前の Oracle ホーム名です。
3. Windows エクスプローラから <システム・ドライブ>:\Program Files\Oracle を削除します。
4. ハード・ディスク・ドライブ上のすべての ORACLE_BASE ディレクトリを削除します。
5. コンピュータを再起動します。

Windows 98 のレジストリからの Oracle キーの削除

Windows 98 上でコンピュータから Oracle コンポーネントをすべて削除するには、次のようにします。

1. MS-DOS コマンド・プロンプトでレジストリ エディタを起動します。

```
C:\> regedit
```
2. HKEY_CLASSES_ROOT に移動します。
3. Oracle または ORCL で始まるキーを削除します。
4. HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE に移動します。
5. ORACLE キーを削除します。
6. HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ODBC\odbcinst.ini に移動します。

7. Oracle ODBC Driver キーを削除します。
8. HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥ORACLE に移動します。
9. Oracle または ORCL で始まるキーがある場合は削除します。
10. HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥ODBC¥odbcinst.ini に移動します。
11. Oracle キーを削除します。
12. レジストリ エディタを終了します。
13. コンピュータを再起動します。

システム変数パスの更新

autoexec.bat ファイルを編集して、パス設定から %ORACLE_HOME%¥BIN および JRE のパスを削除します。

「スタート」メニューからの Oracle の削除

1. Windows エクスプローラから <システム・ドライブ>¥Program Files¥Oracle を削除します。
2. 次の場所からアイコンを削除します。
 - <システム・ドライブ>¥windows¥スタート メニュー¥プログラム ¥oracle-HOME_NAME
 - <システム・ドライブ>¥windows¥スタート メニュー¥プログラム ¥oracle installation productsHOME_NAME は、以前の Oracle ホーム名です。
3. ハード・ディスク・ドライブ上のすべての ORACLE_BASE ディレクトリを削除します。
4. コンピュータを再起動します。

インストール後の構成タスク

この章では、インストール後の構成タスクを説明します。この章では適宜、構成タスクの実行手順に関するその他の参考資料も示しています。

この章の項目は次のとおりです。

- [NTFS ファイル・システムと Windows レジストリ権限](#)
- [パッチ・セット情報](#)
- [コンポーネント別インストール後の構成タスク](#)

NTFS ファイル・システムと Windows レジストリ権限

Oracle データベースのファイル、ディレクトリおよびレジストリの設定は、認証されたデータベース管理者（DBA）のみが完全に制御できるように構成することをお勧めします。Database Configuration Assistant を使用してデータベースを作成している場合、または Oracle Database Upgrade Assistant を使用してデータベースをアップグレードしている場合は、その他の処理は必要ありません。

この項では、Oracle Universal Installer、Database Configuration Assistant および Oracle Database Upgrade Assistant により自動的に設定される権限と、これらの権限を手動で設定する手順について説明します。

次の内容について説明します。

- [ファイル権限](#)
- [NTFS ファイル・システムのセキュリティの設定](#)
- [Windows レジストリのセキュリティの設定](#)

関連資料： NTFS ファイル・システムと Windows レジストリの設定の変更の詳細は、Windows のドキュメントを参照してください。

ファイル権限

このリリースからは、Oracle ソフトウェアのインストール時またはアップグレード時に、Oracle Universal Installer、Database Configuration Assistant および Database Upgrade Assistant によりファイル権限が設定されます。

次の内容について説明します。

- [Oracle Universal Installer により設定されるファイル権限](#)

Oracle Universal Installer により設定されるファイル権限

Oracle9i のインストール時に、デフォルトで、Oracle Universal Installer はソフトウェアを ORACLE_HOME にインストールします。

Oracle Universal Installer は、このディレクトリ、およびこのディレクトリ下のすべてのファイルとディレクトリに対して、次の権限を設定します。

- Administrators: すべての制御権限
- System: すべての制御権限
- Authenticated Users: 読み込み、実行および内容の一覧表示

重要： これらのアカウントがすでに存在し、より制限の多い権限を持っている場合は、最も制限の多い権限が保持されます。Administrators、System および Authenticated Users 以外のアカウントがすでに存在する場合は、これらのアカウントに対する権限が削除されます。

NTFS ファイル・システムのセキュリティの設定

認証されたユーザーのみがすべてのファイル・システム権限を持つようにするには、次のようにします。

1. Windows エクスプローラを表示します。
2. ORACLE_HOME に対して、次の権限を設定します。
 - Administrators: すべての制御権限
 - System: すべての制御権限
 - Authenticated Users: 読み込み、実行および内容の一覧表示

注意： Oracle9i データベースは、Windows の LocalSystem 組込みセキュリティ・アカウントを使用します。したがって、Oracle9i データベースを実行しているローカル・コンピュータの System アカウントにファイル権限を付与する必要があります。

関連資料： NTFS ファイル・システムと Windows レジストリの設定の変更方法は、Windows のオンライン・ヘルプを参照してください。

Windows レジストリのセキュリティの設定

Windows レジストリの HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE で、Oracle9i の DBA やシステム管理者でないユーザーから書き込み権限を削除することをお勧めします。

書き込み権限を削除するには、次のようにします。

1. レジストリ エディタを開きます。
2. HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE に移動します。
3. メイン・ウィンドウから「セキュリティ」→「アクセス権」を選択します。
「レジストリ キーのアクセス権」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. Oracle9i の DBA やシステム管理者以外のユーザーから書き込み権限を削除します。
SYSTEM アカウントは、Oracle9i データベースを実行するアカウントであるため、すべての制御権限を持つ必要があります。

5. Oracle アプリケーションを実行する必要があるユーザー・アカウントに読み込み権限があることを確認します。
6. 「OK」を選択します。
7. レジストリ エディタを終了します。

パッチ・セット情報

Oracle データベースのインストールでは、たとえば Oracle9i リリース 1 (9.0.1) のように、常にベース・リリースがインストールされます。ベース・リリースのインストールが正常に終了した後で、最新のパッチ・セット・リリースをインストールすることをお勧めします。

コンポーネント別インストール後の構成タスク

コンポーネントによっては、個別にインストール後の構成タスクが必要です。次の項に、構成要件および固有の構成手順に関する項またはドキュメントを示します。

- [Management Pack for Oracle Applications](#)
- [Oracle Advanced Security](#)
- [Oracle HTTP Server](#)
- [Oracle Workflow](#)
- [Pro*COBOL](#)
- [Oracle Net Services](#)

Management Pack for Oracle Applications

インストールの完了後、追加の構成タスクを実行すると、Management Pack for Oracle Applications を使用できます。

関連資料：『Oracle Management Pack for Oracle Applications スタート・ガイド』

Oracle Advanced Security

認証、暗号化、整合性のサポートおよびエンタープライズ・ユーザー・セキュリティを構成する必要があります。

関連資料：『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』

Oracle HTTP Server

Oracle HTTP Server の起動、停止および状態確認ができます。

関連資料：

- 『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』
- 『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』の「HTTP サーバーの管理」

Oracle Net Services

Oracle Net Configuration Assistant は、Oracle ネットワークの構成を補助するツールです。

Oracle Net Services をインストールした場合、Oracle Net Configuration Assistant は、クライアント・コンピュータおよび Oracle9i データベース・サーバーのネットワーク構成を自動的に順を追って指示します。

インストール後に、Oracle Net Configuration Assistant および Oracle Net Manager などのツールを使用しても Oracle ネットワークを構成できます。

関連資料：

- 『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』および両方のツールで使用可能なオンライン・ヘルプを参照してください。
- 使用可能な構成の選択に関する説明は、3-3 ページの「[クライアント・ネットワークの構成](#)」を参照してください。

Oracle Workflow

次のような、いくつかの構成タスクを実行する必要があります。

- `init.ora` パラメータ・ファイルの編集
- Web サーバーのインストールおよび構成
- ベース URL の確認
- Oracle Workflow Monitor および HTML ヘルプの設定

関連資料：『Oracle Workflow Client インストレーション・ノート』

Pro*COBOL

Pro*COBOL は特定のコンパイラをサポートします。

関連資料：『Pro*COBOL for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド』の「Pro*COBOL の概要」

インストール可能な個々のコンポーネント

この付録では、各インストール・タイプで使用可能な上位コンポーネントについて説明します。「カスタム」インストール・タイプは、現在のカテゴリに含まれるすべてのコンポーネントのインストールで使用可能であるため、記載されていません。

この章の項目は次のとおりです。

- [Oracle9i Client のコンポーネント](#)
- [コンポーネントの説明](#)

注意：一部のコンポーネントは、「カスタム」インストールでのみインストールされます。そのようなコンポーネントの場合は、この付録の表の他のインストール・タイプに「×」と表示されます。

関連項目：インストールされたすべてのコンポーネントおよび機能 (Required Support Files や Common Files などの下位コンポーネントを含む) のログ・ファイルに関する情報は、4-8 ページの「[インストール・セッション・ログの確認](#)」を参照してください。

Oracle9i Client のコンポーネント

表 A-1 には、各インストール・タイプで使用可能なコンポーネントがアルファベット順に示されています。

表 A-1 Oracle9i Client の使用可能なコンポーネント

コンポーネント	管理者	ランタイム
Advanced Queueing API	○	×
Object Type Translator	○	×
Oracle Administrative Assistant for Windows NT	○	×
Oracle Advanced Security。次のコンポーネントを含む。	○	×
■ 認証サポート。次のコンポーネントを含む。	×	×
CyberSafe (SSO サポートあり)	×	×
DCE (SSO サポートあり)	×	×
Entrust	×	×
Kerberos (SSO サポートあり)	×	×
RADIUS (スマート・カード、トークン・カードおよびバイオメトリック用)	×	×
■ 暗号化と整合性のサポート。次のコンポーネントを含む。	○	×
3DES_112 Encryption (2 キー・オプション)	○	×
3DES_168 Integrity (3 キー・オプション)	○	×
DES40 Encryption	○	×
DES56 Encryption	○	×
MD5 Integrity	○	×
RC4_40 Encryption	○	×
RC4_56 Encryption	○	×
RC4_128 Encryption	○	×
RC4_256 Encryption	○	×
SHA-1 Integrity	○	×
■ エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ。次のコンポーネントを含む。	○	×
Oracle Enterprise Login Assistant	○	×

表 A-1 Oracle9i Client の使用可能なコンポーネント（続き）

コンポーネント	管理者	ランタイム
Oracle Enterprise Security Manager（Oracle Enterprise Manager Integrated Applications として使用可能）	○	×
Oracle Wallet Manager	○	×
■ Thin JDBC Java ベースの暗号化サポート	○	×
Oracle Call Interface	○	×
Oracle Enterprise Manager。次のコンポーネントを含む。	○	×
■ Oracle Enterprise Manager Client。次のコンポーネントを含む。	○	×
■ Oracle Enterprise Manager コンソール	○	×
■ Oracle Enterprise Manager Integrated Applications。次のコンポーネントを含む。	○	×
Oracle Data Guard Manager	○	×
Oracle Directory Manager	○	×
Oracle Enterprise Security Manager	○	×
Oracle Forms Server Manager	○	×
Oracle LogMiner Viewer	○	×
Oracle Policy Manager	○	×
Oracle Spatial Index Advisor	○	×
Oracle Text Manager	○	×
SQL*Plus Worksheet	○	×
■ Oracle Enterprise Manager Management Packs。次のコンポーネントを含む。	○	×
Oracle Change Management Pack	○	×
Oracle Diagnostics Pack	○	×
Oracle Management Pack for Oracle Applications	○	×
Oracle Standard Management Pack	×	×
Oracle Tuning Pack	○	×
Oracle HTTP Server	×	×
Oracle <i>interMedia</i> Annotator	○	×
Oracle <i>interMedia</i> Client Option	○	×

表 A-1 Oracle9i Client の使用可能なコンポーネント（続き）

コンポーネント	管理者	ランタイム
Oracle <i>interMedia</i> Java Client	○	×
Oracle <i>interMedia</i> Web Client	○	×
Oracle Internet Directory Client	○	×
Oracle Java Tools	○	×
Oracle JDBC ドライバ	○	○
Oracle Migration Workbench	×	×
Oracle Net Services	○	×
Oracle Objects for OLE	○	×
Oracle ODBC ドライバ	○	×
Oracle Programmer	○	×
Oracle Provider for OLE DB	○	×
Oracle Services for Microsoft Transaction Server	×	×
Oracle SQLJ	○	×
Oracle Syndication Server	○	×
Oracle Ultra Search Middle Tier	○	×
Oracle Universal Installer	○	×
Oracle Utilities	○	×
Oracle Workflow Builder	○	×
Oracle Workflow Mailer	○	×
Oracle XML Developer's Kit	○	×
Oracle XML SQL Utility	○	×
Oracle9i Globalization Support	○	○
Oracle9i Windows Documentation（インストール・ガイド、リリース・ノートなどのリリース・ドキュメント）	○	×
PL/SQL	○	×

表 A-1 Oracle9i Client の使用可能なコンポーネント（続き）

コンポーネント	管理者	ランタイム
Pro*C/C++	○	×
Pro*COBOL	○	×
Remote Configuration Agent	○	○
Replication Management API	○	×
SQL*Plus	○	○

関連項目： これらのコンポーネントの説明とリリース番号の情報は、A-5 ページの「[コンポーネントの説明](#)」を参照してください。

コンポーネントの説明

表 A-2 では、インストール可能な個々のコンポーネントの説明とリリース番号を示します。該当するコンポーネントを詳細に説明しているドキュメントの参照先も示します。

表 A-2 コンポーネントの説明

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Advanced Queueing API	9.2	Advanced Queueing の API をサポートする機能を提供するコンポーネントです。	『Oracle9i アプリケーション開発者ガイド - アドバンスド・キューイング』
Assistant Common Files (Database Configuration Assistant や Oracle Net Configuration Assistant などの Oracle アシスタント製品とともにインストールされる)	9.2	Oracle のアシスタントが必要とする、自動的にインストールされる一連のファイルです。次のファイルがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ BaliShare 1.1.17（圧縮） ■ DBUI 2.2.11 ■ EWT 3.4.13（圧縮） ■ ICE Browser 5.06.8（圧縮） ■ Java Swing Components 1.1.1（圧縮） ■ JEWTS 4.1.10 ■ JLE 2.0.1 ■ Kodiak 1.2.1 ■ Oracle Help for Java 3.2.13 - EWT（圧縮） ■ Oracle Help for Java 4.1.13 - JEWTS（圧縮） 	なし

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Java Runtime Environment (Oracle で使用されるバージョン)	1.1.8.18 1.3.1.2	Java Runtime Environment (JRE) は、Oracle Universal Installer などの Java アプリケーションの実行に必要です。	なし
LogMiner Viewer (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の 1 つ)	9.2	REDO ログ・ファイルを検索し、過去のデータベース変更アクティビティの分析を支援するツールです。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Enterprise Manager 概説』 ■ 『Oracle9i データベース管理者ガイド』
Object Type Translator (OTT)	9.2	OTT は、すでに作成されて Oracle データベースに格納されている抽象データ型を表現する C 構造体を作成するために使用されます。オブジェクトを利用するには、データベースに対して OTT を実行します。これにより、C 構造体を含むヘッダー・ファイルが生成されます。 Oracle INTYPE File Assistant を含みます。	『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』
Oracle Administration Assistant for Windows NT	9.2	データベース・サービスの起動と停止、Oracle サービスの自動起動、Oracle バックグラウンド・プロセス情報の表示を行い、データベース・ユーザーを Windows NT で認証するように構成できるツールです。	『Oracle9i for Windows セキュリティおよびネットワーク統合ガイド』の「Windows 環境におけるデータベース・ユーザーの認証」
Oracle Advanced Security	9.2	Oracle Advanced Security は、Oracle9i に次の一連の包括的なセキュリティ・サービスを提供します。すべてのデータベース・エディションに、SSL (X.509 バージョン 3 および SSO サポート) が含まれます。	『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』
■ 認証サポート		厳密認証サポートが提供されます。	『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』
■ 認可サポート		認可ソリューションは、分散コンピューティング環境 (DCE)、および Oracle Advanced Security のエンタープライズ・ロール管理機能で提供されます。	『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
■ 暗号化と整合性のサポート		データの機密性は、暗号化とデータ整合性のタイプを使用して確保されます。 注意： 米国輸出管理規定（EAR）が最近変更され、オラクル社は、Oracle Advanced Security の全世界版を出荷できるようになりました。Oracle Advanced Security は、以前は米国およびカナダの市場でのみ入手可能だった強力なプロトコル暗号化を Oracle9i データベースに組み込みます。	『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』
■ エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ・サポート		エンタープライズ・ユーザーの集中管理、エンタープライズ・ロール管理およびシングル・サインオンのために、Oracle Internet Directory などの LDAP v3 準拠のディレクトリ・サービスとの統合が提供されています。	『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』
■ シングル・サインオン・サポート		シングル・サインオン（1 回のユーザー認証）が提供されます。その後の接続では、厳密認証が透過的に行われます。Kerberos、CyberSafe、DCE および SSL ベースのシングル・サインオンがサポートされます。	『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』
Oracle Call Interface (OCI)	9.2	C または C++ プログラムから Oracle データベースにアクセスするための API です。C または C++ プログラムから直接 OCI 関数をコールし、SQL 文を実行させます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』 ■ 『Oracle Call Interface for Windows スタート・ガイド』
Oracle Change Management Pack (Oracle Enterprise Manager Management Pack のオプション)	9.2	Oracle Change Management Pack は、データベース・オブジェクト定義の追跡および変更に使われる統合化アプリケーションのグループです。このパックを使用すると、データベースのメタデータの変更の追跡、新規アプリケーションをサポートするためにデータベースをアップグレードするときのエラーおよびデータ消失の解消、メタデータの変更に関する影響および複雑な従属関係の分析が可能です。また、体系的にアップグレードの手順を示す簡単なウィザードを使用して、アップグレードを自動的に実行できます。	『Oracle Enterprise Manager Oracle Change Management Pack スタート・ガイド』
Oracle COM Automation	9.2	PL/SQL 開発者が OLE オートメーション・インタフェース（IDispatch）を通して COM オブジェクトをプログラマ的に操作できるようにする機能です。	『Oracle COM Automation 機能 開発者ガイド』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle Data Guard Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の 1 つ)	9.2	スタンバイ・データベース環境の設定および管理に含まれるタスクの自動化を支援するツールです。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Enterprise Manager 概説』 ■ 『Oracle9i Data Guard 概要および管理』
Oracle Forms Server Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の 1 つ)	9.2	Forms Listener、Forms Server、Load Balancer Server および Load Balancer Client の制御と監視を可能にするツールです。さらに、このツールによって、起動やシャットダウンのような基本的制御のほか、サービス停止、メモリー使用量超過、CPU 使用量超過などのイベントの監視や、問題発生時の自動修復が可能です。	『Oracle Enterprise Manager 概説』
Oracle Diagnostics Pack (Oracle Enterprise Manager Management Pack のオプション)	9.2	Oracle Diagnostics Pack は Oracle Enterprise Manager を拡張して、多層化された Oracle データベース環境の監視、診断および容量計画を可能にします。Oracle Diagnostics Pack を使用すると、データベースやノードなどのターゲットの発見およびグラフィック表示、パフォーマンスおよびリソース使用率データの自動収集、Intelligent Agent を使用したリモート・システムの中央監視および管理を実行できます。Oracle Diagnostics Pack では、1 つのパフォーマンス・モニター・ソリューションが提供されます。これは、リアルタイムの図表を使用したエージェント・ベースの自動監視と、過去の傾向分析を組み合わせたもので、パフォーマンス問題の発見および調査に関して、論理的に段階を追った方法論を提供します。また、Oracle Diagnostics Pack には、Performance Manager チャートと Capacity Planner 分析レポートの自動生成および Web 発行ができる機能があります。	『Oracle Enterprise Manager Oracle Diagnostics Pack スタート・ガイド』
Oracle Directory Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の 1 つ)	9.2	Java ベースのツールで、Oracle Internet Directory の機能の大半とその関連プロセスを管理します。	『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle Enterprise Login Assistant	9.2	シングル・サインオンを使用可能にするツールです。シングル・サインオン機能は Oracle Wallet Manager 機能のサブセットを実装し、ユーザーの Wallet を開きアプリケーションで使えるようにします。	<ul style="list-style-type: none"> 『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』 『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager	9.2	異機種間環境を集中管理するための統合化ソリューションを実現する一連のコンポーネントです。Oracle Enterprise Manager は、グラフィカル・コンソール、Oracle Management Server、Oracle Intelligent Agent、および Oracle とサード・パーティのコンポーネントを管理する統合化された包括的なシステム管理プラットフォームを実現するためのツールの組合せです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager Client	9.2	Oracle Enterprise Manager の第 1 層は、コンソールや管理アプリケーションのようなクライアントで構成されており、管理者に対してすべての管理タスクを GUI で表します。これらのクライアント・コンポーネントは、ローカルに、または Web ブラウザとともにインストールできます。	『Oracle Enterprise Manager 概説』
Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant	9.2	管理者が Oracle Enterprise Manager リポジトリの作成、削除、アップグレードおよび構成を行うときに、それらのタスクを支援するツールです。 Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant は、Oracle Management Server とともに自動的にインストールされます。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle Enterprise Manager コンソール	9.2	<p>Oracle Enterprise Manager の第 1 層のクライアント・インタフェースで、次の機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 複数のデータベースを集中管理、診断およびチューニングします。■ その他の Oracle コンポーネントおよびサービスを管理します。■ Oracle コンポーネントおよびサード・パーティ・サービスの状態を、24 時間監視して対応します。■ 複数のノード上のジョブを多様な時間間隔でスケジュールします。■ イベントのネットワーク化されたサービスを監視します。■ データベースとその他のサービスを論理的な管理グループに編成することで、表示をカスタマイズします。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager Integrated Applications	9.2	<p>Oracle 環境を管理するための Oracle Enterprise Manager に統合されるアプリケーションおよび環境が必要とする場合に Oracle Enterprise Manager とともにインストールされるアプリケーションです。大部分のアプリケーションは、Oracle Enterprise Manager のナビゲータ・ペインおよびコンソール・アプリケーション・ドローワから、あるいはオペレーティング・システムからアクセスできます。</p>	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Manager Quick Tours	9.2	<p>HTML ベースの学習ツールで、様々な Oracle Enterprise Manager コンポーネントを実際にインストールすることなく、それらに関する知識を速やかにかつ簡単に得ることができます。次のコンポーネントに対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Oracle Enterprise Manager■ Oracle Change Management Pack■ Oracle Diagnostics Pack■ Oracle Tuning Pack■ Oracle Management Pack for Oracle Applications■ Oracle Standard Management Pack	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle Enterprise Manager Web Site	9.2	Oracle9i の Enterprise Manager Web Site により、管理者は、Web ブラウザから Oracle Enterprise Manager コンソールにアクセスできます。これにより管理者は、Reporting Web Site から、Enterprise Manager コンソールにより発行されたレポートにアクセスすることもできます。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Enterprise Security Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の 1 つ)	9.2	LDAP 準拠のディレクトリ・サーバーを使用して Oracle 環境のユーザー・セキュリティの管理を支援するツールです。このツールによって、同時に複数のデータベースが運用される中で、管理者は企業レベルのロール認可を管理できるようになります。	『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』
Oracle Home Selector (Oracle Universal Installer とともにインストールされる)	1.7.0	適切な Oracle ホーム・ディレクトリをプライマリ・ホームにするために、環境パスを編集できるようにするツールです。	『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』の「複数の Oracle ホームおよび Optimal Flexible Architecture」
Oracle HTTP Server	1.3.22.0.0a	ブラウザ・ベースの Oracle Enterprise Manager コンソール、Enterprise Manager Repository Web Site および iSQL*Plus で使用される、すぐに使用可能な構成済リスナーを提供するコンポーネント。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』 ■ 「スタート」メニューから参照可能なオンライン・ドキュメント
Oracle <i>interMedia</i> Client Option (Oracle <i>interMedia</i> の一部)	9.2	クライアント側アプリケーションを使用して、ネットワーク・アクセスが可能なサーバー上のデータベースに保存されたマルチメディア・データを、操作および変更できる Oracle <i>interMedia</i> Audio、Image、Video の Java インタフェースを提供するコンポーネントです。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle <i>interMedia</i> ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』 ■ %ORACLE_HOME%\ord\im\admin\README.txt にある Oracle <i>interMedia</i> の README
Oracle Internet Directory Client	9.2	Oracle9i データベースの様々なコンポーネントが記憶域の集中化のために Oracle Internet Directory を使用できるようにするコンポーネントです。	『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』
Oracle INTYPE File Assistant (OTT とともにインストールされる)	9.2	OTT により変換されるタイプのリストを提供する INTYPE ファイルの作成を補助します。このコンポーネントは、OTT とともに自動的にインストールされます。	『Oracle Call Interface for Windows スタート・ガイド』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle JDBC (Java Database Connectivity) ドライバ	9.2	<p>JavaSoft によって指定された Java クラスの標準セットで、Java からリレーショナル・データに対するベンダーに依存しないアクセスを実現します。次のコンポーネントを含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> JDK 1.1、1.2 および 1.4 用の Oracle JDBC Thin ドライバ JDK 1.1、1.2 および 1.4 用の Oracle JDBC/OCI ドライバ 	『Oracle9i JDBC 開発者ガイドおよびリファレンス』
Oracle Java Tools	9.2	Java ストアド・プロシージャおよび Oracle JVM を備えた EJB を構築および配布するための Java ツールを提供します。	『Oracle9i SQLJ 開発者ガイドおよびリファレンス』
Oracle Management Pack for Oracle Applications (Oracle Enterprise Manager Management Pack のオプション)	9.2	Oracle Management Pack for Oracle Applications は Oracle Enterprise Manager を拡張して、管理者が Oracle Applications 配置のすべての層を互いに関連付けることができるようにします。この配置は、Oracle Applications 特有の並行処理から中間層を介してデータベースおよびノードまで及びます。	『Getting Started with Oracle Management Pack for Oracle Applications』
Oracle Migration Workbench	2.0.1	<p>Oracle 以外のデータベースから Oracle9i へのデータおよびアプリケーションの移行プロセスを簡略化するツールです。Oracle Migration Workbench によって、アプリケーション・システム全体（すなわち、トリガーおよびストアド・プロシージャを含むデータベース・スキーマ）を、統合化されたビジュアル環境に迅速かつ簡単に移行できます。Oracle 以外の次のデータベースからの移行がサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> IBM DB2/AS400 V4R5 Informix Dynamic Server Microsoft Access Microsoft SQL Server MySQL Sybase Adaptive Server 	<p>Oracle 以外のデータベースについては、Oracle Migration Workbench のマニュアル</p> <p>このリリースでは、Oracle Migration Workbench は Oracle9i データベース・ドキュメント CD に収録されています。</p>

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle Net Configuration Assistant	9.2	インストール後にこのツールを使用して、Oracle Net Services コンポーネントを構成できます。このマニュアルで説明しているとおり、Oracle Net Configuration Assistant はインストール後に自動的に実行されます。クライアントまたはサーバーで使用します。また、スタンドアロン・モードで実行して、ネーミング・メソッドの使用法、リスナー、およびディレクトリ・サーバーの使用構成を設定できます。	『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』
Oracle Net Manager	9.2	<p>構成機能とコンポーネント制御を組み合せ、Oracle Net Services を構成および管理するための統合化環境を実現する Oracle Net Services ツールです。このツールは、クライアントでもサーバーでも使用可能です。</p> <p>Oracle Net Manager を使用して、次のネットワーク・コンポーネントを構成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ネーミング・メソッド <p>接続識別子を解決して接続記述子を得るための様々な方法を構成します。</p> ■ ネーミング <p>単純な名前と接続識別子を定義して、ネットワーク位置およびサービスの ID を識別するために定義した接続記述子へマップします。Oracle Net Manager は、ローカルの tnsnames.ora ファイル、集中化されたディレクトリ・サーバー、または Oracle Names Server の接続記述子の構成をサポートします。</p> ■ リスナー <p>クライアント接続を受け入れるために、リスナーを作成し構成します。</p> 	『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle Net Protocol Support	9.2	Named Pipes プロトコル、TCP/IP プロトコルまたは SSL 付き TCP/IP プロトコルを使用して、クライアント / サーバーがネットワークで対話できるようにサポートします。Oracle コンポーネントのこの組合せによって、クライアントの Oracle アプリケーションは、Named Pipes または TCP/IP を介してリモートの Oracle データベースと通信できるようになります（Oracle データベースを実行しているホスト・システムが、Named Pipes または TCP/IP を使用したネットワーク通信をサポートしている場合）。	『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』
Oracle Net Services	9.2	異機種間の分散コンピューティング環境における企業全体の接続性に関するソリューションを提供する、一連のネットワーキング・コンポーネントです。Oracle Net Services は、Oracle Net Listener、Oracle Connection Manager、Oracle Net Configuration Assistant、Oracle Net Manager で構成されています。	『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』
Oracle Objects for OLE (OO4O)	9.2	OLE インプロセス・サーバーを伴うカスタム・コントロール（OCX または ActiveX）で、Oracle9i データベース固有の機能を Windows アプリケーションにプラグインできます。	「スタート」メニューから参照可能なオンライン・ヘルプ
Oracle ODBC (Open Database Connectivity) ドライバ	9.2	Windows NT、Windows 2000 および Windows 98 クライアント・システムから Oracle9i データベースへの ODBC 接続をサポートするコンポーネントです。Oracle ODBC ドライバは Microsoft ODBC 仕様のバージョン 3.51 に準拠しています。	「スタート」メニューから参照可能なオンライン・ヘルプ
Oracle Policy Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の 1 つ)	9.2	仮想プライベート・データベース（VPD）および Oracle Label Security のセキュリティ・ポリシーを作成、管理できます。	『Oracle Label Security 管理者ガイド』
Oracle Programmer	9.2	アプリケーション開発者が、Oracle9i データおよびスキーマにアクセスして操作するアプリケーションを構築できるようにする一連のインタフェースとツールです。 Oracle Precompilers、Oracle Call Interface、Oracle ODBC ドライバ、Oracle Objects for OLE、SQL*Module および Object Type Translator を含みます。	なし

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle Provider for OLE DB	9.2	アプリケーション、コンパイラおよびその他のデータベース・コンポーネントによる高いパフォーマンスと Oracle データへの効果的なアクセスを提供するインタフェースです。	『Oracle Provider for OLE DB 開発者ガイド』
Oracle SQLJ	9.2	埋込み SQL 文を伴う Java プログラムに対するプリプロセッサです。JDBC コールを伴う Java プログラムを生成します。	『Oracle9i SQLJ 開発者ガイドおよびリファレンス』
Oracle Standard Management Pack	9.2	Oracle Standard Management Pack はオプション・セットのアプリケーションで、問題の監視および診断、高い影響指数のチューニング、Oracle 環境での変更を追跡および比較できる拡張ツールを提供します。	『Oracle Enterprise Manager Oracle Standard Management Pack スタート・ガイド』
Oracle Text Manager (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の 1 つ)	9.2	Oracle9i データベース内のテキストを管理および検索するためのテキスト検索システムです。データベースのテキストを、その他のタイプのデータ同様、迅速かつ容易に管理および検索できるようにします。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
Oracle Tuning Pack (Oracle Enterprise Manager Management Pack のオプション)	9.2	Oracle Tuning Pack は、最も影響度の高いデータベース・パフォーマンス・エリア（アプリケーション SQL、インデックス・ストラテジ、I/O を制御するインスタンス・パラメータ、SGA パフォーマンス、オブジェクトのサイジング、配置および再編成など）のチューニングに重点を置いた拡張ツールを提供します。このパックのツールは連動して様々なデータベース・チューニング・タスクを実行します。Oracle Tuning Pack に含まれているアプリケーションは、Oracle SQL Analyze、Oracle Expert、Outline Editor、Outline Management、Oracle Index Tuning Wizard、Reorg Wizard および Tablespace Map です。	『Oracle Enterprise Manager Oracle Tuning Pack によるデータベース・チューニング』
Oracle Universal Installer	2.2.0.10.0	Oracle コンポーネントのインストール、更新、削除を短時間で実行できる GUI アプリケーションです。Oracle Universal Installer には、Java Runtime Environment (Oracle で使用されるバージョン) および Oracle Home Selector が含まれます。	『Oracle Universal Installer Concepts Guide』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle Utilities	9.2	<p>データベース管理に使用される一連のコンポーネントです。Oracle Utilities には、次のコンポーネントが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Character Set Migration Utility■ エクスポート / インポート・ユーティリティ■ SQL*Loader■ Database Verify Utility（「Client」インストール・タイプでは使用不可）■ Migration Utility（「Client」インストール・タイプでは使用不可）■ Recovery Manager	<p>『Oracle9i データベース・ユーティリティ』</p> <p>注意： ORADIM などの Windows NT のみのユーティリティについては、『Oracle9i Database for Windows 管理者ガイド』で説明します。</p>
Oracle Wallet Manager	9.2	<p>1 対の公開鍵と秘密鍵を生成して認証局に発行する証明書要求の作成、認証のための証明書のインストール、認証のための信頼できる認証局の構成を行うツールです。</p>	<p>『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』</p>
Oracle Workflow Builder	2.6.2	<p>Oracle Workflow Builder は、ワークフロー・プロセス定義を作成、表示および変更するための GUI ツールです。Oracle Workflow Builder には、ビジネス・プロセスのアクティビティとコンポーネントを定義するナビゲータ・ウィンドウがあります。</p>	<p>『Oracle Workflow Client インストレーション・ノート』</p>
Oracle Workflow Mailer	2.6.2	<p>このコンポーネントは、Oracle Workflow 通知システムの電子メール送信および応答処理を実行します。プログラムは、通知電子メール・メッセージをユーザーに送信し、ユーザー応答を解析して通知を完了します。このコンポーネントには、Windows NT 上の任意の Messaging Application Programming Interface（MAPI）準拠メール・アプリケーションと直接統合できる実装があります。</p> <p>MAPI 準拠の実装を Windows NT コンピュータにインストールするには、最上位の Oracle9i クライアント・コンポーネントの「カスタム」インストール・タイプを使用して Oracle Workflow Mailer を選択します。この実装では、MAPI 準拠のメール・アプリケーションがコンピュータにインストールされ、メール・サーバーとして機能している必要があります。</p>	<p>『Oracle Workflow Client インストレーション・ノート』</p>

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
Oracle XML Developer's Kit	9.2	<p>このキットは、XML データの解析と生成を行う API セットから構成されます。これらのインタフェースは、Java、C、C++ および PL/SQL 用に作成されています。このキットは、次のコンポーネントから構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ XML Parser for Java ■ XML Parser for C ■ XML Parser for C++ ■ XML Parser for Oracle JVM (「Client」 インストール・タイプではインストールされない) ■ XML Parser for PL/SQL ■ XML Class Generator for Java ■ XML Class Generator for C++ ■ XML Transviewer Beans ■ XML Transx ■ XSQL Servlet 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle9i XML Developer's Kit ガイド -XDK』 ■ 『Oracle9i XML API リファレンス -XDK および Oracle XML DB』
Oracle XML SQL Utility	9.2	<p>このユーティリティは、問合せが結果セットまたは XML にラップされているオブジェクトを返せるようにする Java クラスおよび PL/SQL ラッパーのセットです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle9i XML Developer's Kit ガイド -XDK』 ■ 『Oracle9i XML API リファレンス -XDK および Oracle XML DB』
Oracle JVM Accelerator (Oracle JVM の一部)	9.2	<p>このコンポーネントは、Oracle JVM の現在の機能を拡張し、Java コードのネイティブ・コンパイルを提供してパフォーマンスを改善します。</p>	<p>『Oracle9i Java Stored Procedures Developer's Guide』</p>
Oracle9i Windows Documentation (インストール・ガイド、リリース・ノートなどのリリース・ドキュメント)	9.2	<p>インストール・ガイド (このマニュアル) では、Oracle コンポーネントのインストール方法を説明します。『Oracle9i Database for Windows リリース・ノート』には、Oracle9i データベース・ドキュメント CD のドキュメント・ライブラリにはない最新情報が記載されています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ このインストール・ガイド ■ 『Oracle9i Database for Windows リリース・ノート』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
PL/SQL	9.2	Oracle による SQL のプロシージャ拡張である PL/SQL は、高度な第 4 世代プログラミング言語（4GL）です。PL/SQL には、カプセル化、オーバーロード、コレクション型、例外処理、情報隠蔽などの最新機能が用意されています。PL/SQL では、透過的な SQL アクセス、Oracle データベースとツールの緊密な統合、移植性およびセキュリティも提供されます。	『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
Pro*C/C++	9.2	Pro*C/C++ プリコンパイラは、C および C++ プログラムに埋め込まれている SQL 文を受け取り、標準 C コードに変換します。このコードをプリコンパイルすると、C または C++ プログラムになります。このプログラムをコンパイルして、Oracle9i データベースにアクセスするアプリケーションを構築します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Pro*C/C++ Precompiler プログラマーズ・ガイド』 ■ 『Pro*C/C++ for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド』
Pro*COBOL	9.2 および 1.8.77	Oracle データベースにアクセスするには、SQL という高級問合せ言語を使用します。通常は、SQL*Plus などの対話形式インタフェースを介して SQL を使用します。Pro*COBOL は、COBOL プログラム内に埋め込まれている SQL 文を標準 Oracle ランタイム・ライブラリ・コールに変換するプリコンパイラです。出力ファイルは、その後、COBOL コンパイラでコンパイルできます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Pro*COBOL Precompiler プログラマーズ・ガイド』 ■ 『Pro*COBOL for Windows プリコンパイラ・スタート・ガイド』
SQL*Plus	9.2	SQL、PL/SQL および SQL*Plus データベース言語を使用できるようにするツールです。SQL*Plus には、コマンドライン・インタフェース、グラフィカル・インタフェースおよびブラウザベースのインタフェースがあります。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『SQL*Plus for Windows スタート・ガイド』 ■ 「iSQL*Plus」 オンライン・ヘルプ
SQL*Plus Worksheet (Oracle Enterprise Manager Integrated Applications の 1 つ)	9.2	手動で、SQL、PL/SQL およびデータベース管理者のコマンドを入力したり、ストアド・スクリプトを実行したりするための GUI アプリケーションです。	『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
SQLJ Runtime (Oracle SQLJ とともにインストールされる)	9.2	JDBC ドライバ上で実行する Pure Java コードの Thin レイヤーです。Oracle SQLJ によって SQLJ ソース・コードが変換されるときに、Java アプリケーションに埋め込まれた SQL コマンドは SQLJ Runtime コールに置換されます。	『Oracle9i SQLJ 開発者ガイドおよびリファレンス』

表 A-2 コンポーネントの説明（続き）

コンポーネント	リリース	説明	関連資料
SQLJ Translator (Oracle SQLJ とともに インストールされる)	9.2	埋込み SQL 文が含まれている Java プログラムに 対するプリプロセッサです。SQLJ Translator は、 SQL 文を JDBC コールに変換します。	『Oracle9i SQLJ 開発者ガイ ドおよびリファレンス』
WINSOCK2 on Windows NT サポート	9.2	Oracle Net は、WINSOCK 1.1 および WINSOCK2 ソケット・インタフェースの両方を サポートします。Oracle Net は Windows NT 上 の WINSOCK2 を自動的に検出し、使用可能な場 合は WINSOCK2 を使用します。WINSOCK2 は、Windows NT リリース 4.0 オペレーティン グ・システムの標準機能です。Oracle Net Services の次の WINSOCK2 機能を使用します。 <ul style="list-style-type: none">■ イベントと重複した I/O■ 共有ソケット（オプション機能として使用 可能）	『Oracle9i for Windows セ キュリティおよびネット ワーク統合ガイド』の 「Oracle Net Services の 構成」
XML Developer's Kit (XDK)	9.2	XML アプリケーションのデータベースとの統合 および実行に必要です。	『Oracle9i XML Developer's Kit ガイド -XDK』

拡張インストール

この付録では、拡張インストールについて説明します。

この付録の項目は次のとおりです。

- 非対話形式モードでの Oracle コンポーネントのインストール
- 異なる言語の Oracle コンポーネント
- Web ベースのインストール

非対話形式モードでの Oracle コンポーネントのインストール

通常、Oracle Universal Installer は対話形式モードで実行されます。つまり、ウィンドウに情報を指定するように要求されます。一方、経験豊富なユーザーは、レスポンス・ファイルを使用して、Oracle Universal Installer を非対話形式モード（サイレント・モード）で実行することもできます。レスポンス・ファイルとは、インストール・プロセス中に Oracle Universal Installer で使用される変数および値を含むテキスト・ファイルです。

ユーザーとの対話がない場合、またはグラフィカルな端末が使用されない場合は、サイレント・インストールをお勧めします。ユーザーは、まずレスポンス・ファイルを編集して、インストールするコンポーネントを指定する必要があります。Oracle Universal Installer (OUI) リリース 1.7.x 以下のリリースを使用する場合、対象となるインストール・システムは、デスクトップ・システムにログオンしている必要があります。

サイレント・インストールを使用すると、Oracle Universal Installer の対話形式モードの GUI を回避できます。表 B-1 に、1 枚目のコンポーネント CD の Response ディレクトリにある使用可能なレスポンス・ファイルを示します。

表 B-1 レスポンス・ファイル

レスポンス・ファイル名	サイレント・モードで実行する対象
clientadmin.rsp	Oracle9i Client の「管理者」インストール・タイプ。
clientruntime.rsp	Oracle9i Client の「ランタイム」インストール・タイプ。
clientcustom.rsp	Oracle9i Client の「カスタム」インストール・タイプ。
netca.rsp	Oracle Net Configuration Assistant により「Enterprise Edition」、「Standard Edition」、「Personal Edition」、「管理者」、「ランタイム」、「Oracle Management Server」または「Oracle Internet Directory」インストール・タイプで行われる構成を実行します。

レスポンス・ファイルのコピーおよび変更

レスポンス・ファイルをコピーおよび変更するには、次のようにします。

1. 1 枚目のコンポーネント CD の Response ディレクトリからハード・ディスク・ドライブに適切なファイルをコピーします。
2. 「スタート」→「プログラム」→「Oracle Installation Products」→「Universal Installer Concepts Guide」を選択します。
『Oracle Universal Installer Concepts Guide』が HTML 形式で表示されます。
3. レスポンス・ファイルおよび『Oracle Universal Installer Concepts Guide』の指示に従って、テキスト・エディタを使用してレスポンス・ファイルを変更します。

Oracle Universal Installer の実行およびレスポンス・ファイルの指定

Oracle Universal Installer を実行しレスポンス・ファイルを指定するには、次のようにします。

1. コマンド・プロンプトに移動します。
2. Oracle Universal Installer がインストールされているディレクトリに移動します。
3. 適切なレスポンス・ファイルを実行します。次に例を示します。

```
C:\¥program files¥oracle¥oui¥install> setup.exe -silent -nowelcome  
-responseFile filename
```

要素名	説明
filename	特定のレスポンス・ファイルのフルパスを指定します。
-silent	完全なサイレント・モードで Oracle Universal Installer を実行します。「ようこそ」ウィンドウは自動的にスキップされます。このパラメータはオプションです。-silent を使用する場合、-nowelcome は必要ありません。
-nowelcome	インストール時に表示される「ようこそ」ウィンドウは表示されません。このパラメータはオプションです。

関連資料：『Oracle Universal Installer Concepts Guide』

異なる言語の Oracle コンポーネント

この項では、次の機能について説明します。

- [異なる言語での Oracle Universal Installer の実行](#)
- [異なる言語での Oracle コンポーネントの使用方法](#)

異なる言語での Oracle Universal Installer の実行

デフォルトでは、Oracle Universal Installer はオペレーティング・システムの選択された言語で実行されます。次に示す言語で Oracle Universal Installer を実行することもできます。

- | | | |
|----------------|------------|---------|
| ■ ポルトガル語（ブラジル） | ■ ドイツ語 | ■ 日本語 |
| ■ 中国語（簡体字） | ■ 中国語（繁体字） | ■ フランス語 |
| ■ イタリア語 | ■ 韓国語 | ■ スペイン語 |

Oracle Universal Installer を異なる言語で実行するには、次のようにします。

1. オペレーティング・システムが実行されている言語を変更します。たとえば、Windows NT の場合は次のようにします。
 - a. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」 → 「地域」を選択します。
 - b. 前述の言語から 1 つを選択して、「OK」を選択します。
2. 4-3 ページの「[Oracle9i のインストールの開始](#)」の指示に従って Oracle Universal Installer を実行します。

注意： 選択された言語が NLS_LANG レジストリ・パラメータに割り当てられます。

異なる言語での Oracle コンポーネントの使用方法

Oracle コンポーネントを使用する際の言語として他の言語を選択できます。これは、Oracle Universal Installer の実行で使用される言語を変更することではありません。Oracle コンポーネントを選択された言語で実行するには、オペレーティング・システムの言語設定と同じにする必要があります。オペレーティング・システムの言語は「コントロール パネル」の「地域」ウィンドウで変更できます。

異なる言語でコンポーネントを使用するには、次のようにします。

1. 4-3 ページの「[Oracle9i のインストールの開始](#)」の指示に従って Oracle Universal Installer を起動します。
2. 「使用可能な製品」ウィンドウで、「製品の言語」ボタンをクリックします。
「言語の選択」ウィンドウが表示されます。
3. 「使用可能な言語」フィールドから Oracle コンポーネントの実行に使用する言語を選択します。
4. 「>」を使用して言語を「選択された言語」フィールドに移動し、「OK」を選択します。
5. インストールする製品を適宜選択し、「次へ」を選択します。

インストールの完了後、インストールされたコンポーネントのダイアログ・ボックスの文字、メッセージおよびオンライン・ヘルプが選択した言語で表示されます。

Web ベースのインストール

Web ブラウザから Oracle コンポーネントをインストールするには、次のようにします。

1. Web サーバーを構成して、リリース 2 (9.2) のコンポーネント CD からファイルを提供できるようにします。
2. Oracle Universal Installer の「ファイルの場所」ウィンドウで、products.jar ファイルの URL を入力します。次に例を示します。

`http://acme.us.oracle.com/920/stage/products.jar`

前に Oracle 製品がインストールされていないコンピュータで Web ベースのインストールを実行する場合、2 つのエラーが発生する可能性があります。これらのエラーは、Oracle Administration Assistant for Windows NT および Oracle Intelligent Agent のインストール時に発生します。どちらのエラーも、Oracle Universal Installer が指定された URL からライブラリをダウンロードしようとする際に発生します。次のエラー・メッセージが表示されます。

- 1 番目のエラー：
エラーが発生しました。
- 2 番目のエラー：
ライブラリの読み込み中にエラーが発生しました。:NtServicesQueries

これら 2 つのエラーを解決するには、次のようにします。

1. どちらの場合も、エラーが発生すると、すべてのコンポーネントのインストールを中止するか、そのコンポーネントのインストールを中止するかを選択できます。そのコンポーネントのインストールのみの中止を選択し、インストールを続行します。
2. インストールの完了後、Oracle Universal Installer を再起動します。
3. 元のインストールと同じ URL を使用して、Oracle9i データベースの「カスタム」インストールを実行します。
4. Oracle Universal Installer の「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウで、Oracle Intelligent Agent (Oracle Enterprise Manager 製品の下) および Oracle Administration Assistant for Windows NT のインストールを選択します。他に選択されているコンポーネントの選択を解除します。

これら 2 つのコンポーネントのインストールが正常に進行します。

グローバリゼーション・サポート

この付録では、グローバリゼーション・サポートについて説明します。

この付録の項目は次のとおりです。

- [NLS_LANG パラメータ](#)
- 一般的に使用される [NLS_LANG の値](#)
- [MS-DOS モードおよびバッチ・モードでの NLS_LANG 設定](#)

NLS_LANG パラメータ

Oracle では、グローバリゼーション・サポートが提供されています。これによりユーザーは、NLS_LANG パラメータによって定義された各自の言語でデータベースとの対話ができます。Oracle9i コンポーネントをインストールすると、NLS_LANG パラメータがレジストリに設定されます。

インストール時の NLS_LANG パラメータのデフォルト値は、オペレーティング・システムのロケール設定に基づいて自動的に選択されます。オペレーティング・システムのロケール値と NLS_LANG 値のマッピングのリストを、C-3 ページの「[一般的に使用される NLS_LANG の値](#)」に示します。

NLS_LANG パラメータは、
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\HOMEID\NLS_LANG サブキーのレジストリに格納されています。ID は、Oracle ホームを識別する一意の番号です。

NLS_LANG パラメータは、次のような形式です。

NLS_LANG = LANGUAGE_TERRITORY.CHARACTER_SET

文字列の意味は、次のとおりです。

LANGUAGE	言語と、その言語でメッセージ、曜日、月を表示する場合の規則などを指定します。
TERRITORY	地域と、その地域で週数と日数を計算する場合の規則などを指定します。
CHARACTER_SET	メッセージを表示する場合に使用するキャラクタ・セットを制御します。

関連資料：

- 複数の Oracle ホームに対するサブキーの場所の詳細は、『Oracle9i Database for Windows スタート・ガイド』を参照してください。
- NLS_LANG パラメータおよびグローバリゼーション・サポートの初期化パラメータの詳細は、『Oracle9i Database グローバリゼーション・サポート・ガイド』を参照してください。

一般的に使用される NLS_LANG の値

表 C-1 は、様々なオペレーティング・システムのロケールに対して一般的に使用される NLS_LANG 値の一覧です。

表 C-1 NLS_LANG パラメータの値

オペレーティング・システム のロケール	NLS_LANG の値
アラビア語 (U.A.E.)	ARABIC_UNITED ARAB EMIRATES.AR8MSWIN1256
ブルガリア語	BULGARIAN_BULGARIA.CL8MSWIN1251
カタロニア語	CATALAN_CATALONIA.WE8MSWIN1252
中国語 (PRC)	SIMPLIFIED CHINESE_CHINA.ZHS16GBK
中国語 (台湾)	TRADITIONAL CHINESE_TAIWAN.ZHT16MSWIN950
クロアチア語	CROATIAN_CROATIA.EE8MSWIN1250
チェコ語	CZECH_CZECH REPUBLIC.EE8MSWIN1250
デンマーク語	DANISH_DENMARK.WE8MSWIN1252
オランダ語 (オランダ)	DUTCH_THE NETHERLANDS.WE8MSWIN1252
英語 (イギリス)	ENGLISH_UNITED KINGDOM.WE8MSWIN1252
英語 (アメリカ)	AMERICAN_AMERICA.WE8MSWIN1252
エストニア語	ESTONIAN_ESTONIA.BLT8MSWIN1257
フィンランド語	FINNISH_FINLAND.WE8MSWIN1252
フランス語 (カナダ)	CANADIAN FRENCH_CANADA.WE8MSWIN1252
フランス語 (フランス)	FRENCH_FRANCE.WE8MSWIN1252
ドイツ語 (ドイツ)	GERMAN_GERMANY.WE8MSWIN1252
ギリシア語	GREEK_GREECE.EL8MSWIN1253
ヘブライ語	HEBREW_ISRAEL.IW8MSWIN1255
ハンガリア語	HUNGARIAN_HUNGARY.EE8MSWIN1250
アイスランド語	ICELANDIC_ICELAND.WE8MSWIN1252
インドネシア語	INDONESIAN_INDONESIA.WE8MSWIN1252
イタリア語 (イタリア)	ITALIAN_ITALY.WE8MSWIN1252
日本語	JAPANESE_JAPAN.JA16SJIS
韓国語	KOREAN_KOREA.KO16MSWIN949

表 C-1 NLS_LANG パラメータの値（続き）

オペレーティング・システム のロケール	NLS_LANG の値
ラトビア語	LATVIAN_LATVIA.BLT8MSWIN1257
リトアニア語	LITHUANIAN_LITHUANIA.BLT8MSWIN1257
ノルウェー語	NORWEGIAN_NORWAY.WE8MSWIN1252
ポーランド語	POLISH_POLAND.EE8MSWIN1250
ポルトガル語（ブラジル）	BRAZILIAN PORTUGUESE_BRAZIL.WE8MSWIN1252
ポルトガル語（ポルトガル）	PORTUGUESE_PORTUGAL.WE8MSWIN1252
ルーマニア語	ROMANIAN_ROMANIA.EE8MSWIN1250
ロシア語	RUSSIAN_CIS.CL8MSWIN1251
スロバキア語	SLOVAK_SLOVAKIA.EE8MSWIN1250
スペイン語（スペイン）	SPANISH_SPAIN.WE8MSWIN1252
スウェーデン語	SWEDISH_SWEDEN.WE8MSWIN1252
タイ語	THAI_THAILAND.TH8TISASCII
スペイン語（メキシコ）	MEXICAN SPANISH_MEXICO.WE8MSWIN1252
スペイン語（ベネズエラ）	LATIN AMERICAN SPANISH_VENEZUELA.WE8MSWIN1252
トルコ語	TURKISH_TURKEY.TR8MSWIN1254
ウクライナ語	UKRAINIAN_UKRAINE.CL8MSWIN1251
ベトナム語	VIETNAMESE_VIETNAM.VN8MSWIN1258

MS-DOS モードおよびバッチ・モードでの NLS_LANG 設定

Oracle Internet Directory コマンドライン・ツールや、SQL*Plus、SQL Loader、Import、Export などの Oracle Utilities を MS-DOS モードで使用するときは、最初にそのセッションの NLS_LANG パラメータのキャラクタ・セット・フィールドを正しい値に設定する必要があります。

注意： Oracle Internet Directory コマンドライン・ツールは、コマンド・プロンプトから実行します。これらのツールを実行するために、Windows 用の UNIX エミュレーション・ユーティリティは不要です。エミュレーション・ユーティリティは、Oracle Internet Directory のシェル・スクリプト・ツールを実行する場合にのみ必要です。詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

いくつかの例外はありますが、MS-DOS モードでは Windows (ANSI コードページ) とは異なるキャラクタ・セット (またはコードページ) を使用し、レジストリ内のデフォルトの Oracle ホームの NLS_LANG パラメータが常に該当する Windows コードページに設定されているため、このように正しい値の設定が必要になります。MS-DOS モード・セッションの NLS_LANG パラメータが適切に設定されていない場合、キャラクタ・セットの変換が正しく行われないうえにエラー・メッセージやデータが破損する可能性があります。

日本語、韓国語、中国語 (簡体字) および中国語 (繁体字) では、MS-DOS コードページは ANSI コードページと同一です。このような場合は、MS-DOS モードで NLS_LANG パラメータを設定する必要はありません。

バッチ・モードでも同様に、バッチ・プロシージャの開始時に SET NLS_LANG コマンドを挿入して、プロシージャで処理するファイルのキャラクタ・セットに応じて、NLS_LANG に適切なキャラクタ・セット値を設定します。

表 C-2 は、様々なオペレーティング・システムのロケールに対して MS-DOS モードに対応する Oracle キャラクタ・セットの一覧です。

表 C-2 オペレーティング・システムのロケールに対する Oracle キャラクタ・セット

オペレーティング・システムのロケール	キャラクタ・セット
アラビア語	AR8ASMO8X
カタロニア語	WE8PC850
中国語 (PRC)	ZHS16GBK
中国語 (台湾)	ZHT16MSWIN950
チェコ語	EE8PC852
デンマーク語	WE8PC850

表 C-2 オペレーティング・システムのロケールに対する Oracle キャラクタ・セット (続き)

オペレーティング・システムのロケール	キャラクタ・セット
オランダ語	WE8PC850
英語 (イギリス)	WE8PC850
英語 (アメリカ)	US8PC437
フィンランド語	WE8PC850
フランス語	WE8PC850
ドイツ語	WE8PC850
ギリシア語	EL8PC737
ハンガリア語	EE8PC852
イタリア語	WE8PC850
日本語	JA16SJIS
韓国語	KO16MSWIN949
ノルウェー語	WE8PC850
ポーランド語	EE8PC852
ポルトガル語	WE8PC850
ルーマニア語	EE8PC852
ロシア語	RU8PC866
スロバキア語	EE8PC852
スロベニア語	EE8PC852
スペイン語	WE8PC850
スウェーデン語	WE8PC850
トルコ語	TR8PC857

関連資料： Oracle Internet Directory のグローバリゼーション・サポートの問題および Oracle Internet Directory 環境の様々なコンポーネントおよびツールに必要な環境変数 NLS_LANG の詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』の「ディレクトリにおけるグローバリゼーション・サポート」を参照してください。

用語集

ldap.ora ファイル (ldap.ora file)

Oracle Net Configuration Assistant により作成されるファイルで、次のディレクトリ・アクセス情報を含む。

- ディレクトリのタイプ
- ディレクトリの場所
- クライアントまたはサーバーがデータベース・サービスに接続するための接続識別子を検索または構成するために使用する、デフォルトの管理コンテキスト

ldap.ora ファイルは、%ORACLE_HOME%\network\admin に置かれる。

listener.ora ファイル (listener.ora file)

リスナーが次の項目を識別するための構成ファイル。

- リスナー名
- 接続要求を受け付けたプロトコル・アドレス
- リスニング対象のサービス

listener.ora ファイルは、%ORACLE_HOME%\network\admin に置かれる。

Oracle9i データベースはサービス登録によりデータベース・サービスの識別を必要としない。ただし、Oracle Enterprise Manager を使用する場合は、Oracle9i データベースに静的なサービス構成が必要。

OPSS\$

初期化ファイル・パラメータ OS_AUTHENT_PREFIX により、データベースに接続するユーザーを認証するために Oracle で使用される接頭辞をユーザーが指定できる。Oracle は、このパラメータの値をユーザーのオペレーティング・システム・アカウント名およびパスワードの前に連結する。接続要求が発行されると、Oracle は接頭辞の付いたユーザー名をデータベース内の Oracle ユーザー名と比較する。

このパラメータのデフォルト値は "" (NULL 文字列) であり、この場合、オペレーティング・システム・アカウント名に接頭辞は追加されない。旧リリースでは、OPSS\$ (オペレーティング・システム固有の短縮名) がデフォルト設定であった。

Oracle Net Foundation レイヤー (Oracle Net foundation layer)

クライアント・アプリケーションとサーバー間の接続の確立と維持、およびこれらの間でのメッセージ交換を行うネットワーク通信レイヤー。

Oracle コンテキスト (Oracle Context)

相対識別名が cn=OracleContext のディレクトリ・サブツリーのルートで、すべての Oracle ソフトウェア情報が保持される。ディレクトリ内には 1 つ以上の Oracle コンテキストを含めることができる。Oracle コンテキストは、ディレクトリ・ネーミング・コンテキストと関連付けることができる。

Oracle コンテキストには、次の Oracle エントリを含めることができる。

- Oracle Net Services ディレクトリ・ネーミングとともに使用してデータベース接続を行う接続識別子
- Oracle Advanced Security とともに使用するエンタープライズ・ユーザー・セキュリティ

Oracle スキーマ (Oracle schema)

LDAP 準拠のディレクトリ・サーバーに格納できるものを決定する規則の集合。Oracle には、Oracle Net Services エントリなど、多くの Oracle エントリ・タイプに適用される独自のスキーマがある。Oracle Net Services エントリ用の Oracle スキーマは、エントリに含まれる属性を含む。

Oracle ホーム (Oracle home)

Oracle コンポーネントをインストールするディレクトリ・パス (たとえば、D:\¥oracle¥ora92 など)。Oracle Universal Installer の「ファイルの場所」ウィンドウの「パス」フィールドで、Oracle ホームの入力が要求される。

Oracle ホーム名 (Oracle home name)

現在の Oracle ホームの名前。各 Oracle ホームには、コンピュータ上のすべての Oracle ホームと区別するために名前が付いている。インストール時に、Oracle Universal Installer の「ファイルの場所」ウィンドウの「名前」フィールドで、Oracle ホーム名の入力が要求される。

SID

データベースをコンピュータ上にあるその他すべてのデータベースと区別する Oracle システム識別子。SID は、入力した文字が 8 文字以上かまたはピリオドでないかぎり、グローバル・データベース名のデータベース名部分（たとえば `sales.us.acme.com` の `sales`）に自動的にデフォルトで設定される。デフォルト値は確定または変更できる。

注意： Oracle Real Application Clusters では、入力された SID の末尾に識別子が自動的に追加される。たとえば、入力値が DB の場合、クラスタの最初のインスタンスには DB1 という SID、2 番目のインスタンスには DB2 という SID が設定される。

sqlnet.ora ファイル (sqlnet.ora file)

クライアントまたはサーバーの構成ファイルで、次を指定する。

- 修飾されていないサービス名またはネット・サービス名に追加されるクライアント・ドメイン
- 名前を解決するときにクライアントが使用するネーミング・メソッドの順序
- 使用するロギング機能およびトレース機能
- 接続の経路
- Oracle Names Server の優先順位
- 外部ネーミング・パラメータ
- Oracle Advanced Security パラメータ

sqlnet.ora ファイルは `%ORACLE_HOME%\network\admin` にある。

Terminal Server

Microsoft Windows Terminal Server は Windows Thin クライアントのターミナル・サーバーで、Windows NT Server 上の複数の同時クライアント・セッションに対するサポートを追加する製品。Windows Terminal Server はオペレーティング・システムの GUI を Oracle9i データベースのユーザーに提供する。

tnsnames.ora ファイル (tnsnames.ora file)

接続記述子にマップされるネット・サービス名を含む構成ファイル。このファイルは、ローカル・ネーミング・メソッド用を使用される。tnsnames.ora ファイルは `%ORACLE_HOME%\network\admin` にある。

UNC

「[汎用命名規則](#)」を参照。

インストール・タイプ (installation type)

インストールするコンポーネントを自動的に選択する事前定義のコンポーネント・セット。各最上位コンポーネントで使用可能なインストール・タイプのリストは、1-5 ページの「[インストール対象の Oracle9i クライアント製品](#)」を参照。

オペレーティング・システム認証による接続 (operating system authenticated connections)

Windows ログオン資格証明を Oracle9i データベースへのユーザー接続の認証に使用できる。Windows システム固有の認証には、次の利点がある。

- ユーザーはユーザー名やパスワードを入力しなくても、複数の Oracle9i データベースに接続できる。
- Oracle9i データベースのユーザー認証情報を Windows で一元管理することによって、Oracle9i でユーザー・パスワードを保管または管理する必要がない。

外部プロシージャ (external procedures)

Oracle データベース上で実行される PL/SQL ルーチンでは、C プログラミング言語で記述され共有ライブラリに保存されている外部プロシージャまたは関数をコールできる。Oracle9i データベースが外部プロシージャに接続するには、データベースをネット・サービス名で構成し、[リスナー](#)をプロトコル・アドレスおよびサービス情報で構成する必要がある。

サービス登録 (service registration)

PMON プロセス (インスタンス・バックグラウンド・プロセス) が[リスナー](#)に情報を自動的に登録する機能。この情報はリスナーに登録されるため、[listener.ora ファイル](#)はこの静的情報を構成する必要はない。

サービス登録はリスナーに次の情報を提供する。

- 実行中のデータベースの各インスタンス用のサービス名
- データベースのインスタンス名
- 各インスタンスで利用可能なサービス・ハンドラ (ディスパッチャおよび専用サーバー)

これにより、リスナーがクライアントの要求を正しく管理できる。

- ディスパッチャ、インスタンスおよびノードのロード情報

これにより、リスナーがクライアントの接続要求を処理できる最良のディスパッチャを決定できる。すべてのディスパッチャがブロックされている場合、リスナーは接続に対して専用サーバーを実行できる。

この情報により、リスナーはクライアントの接続要求を処理するために最良の方法を決定できる。

システム識別子 (system identifier)

「[SID](#)」を参照。

修飾されていない名前 (unqualified name)

ネットワーク・ドメインを含まないネット・サービス名。

接続記述子 (connect descriptor)

特別にフォーマットされた、ネットワーク接続のための宛先の記述。接続記述子は、宛先サービスおよびネットワーク経路情報を含む。

宛先サービスは、Oracle9i データベースの場合はサービス名、リリース 8.0 またはバージョン 7 の Oracle データベースでは、Oracle システム識別子 ([SID](#)) を使用して表される。ネットワーク・ルートは、少なくとも、ネットワーク・アドレスを使用して [リスナー](#) の場所を示す。

接続識別子 (connect identifier)

接続記述子を解決する名前、ネット・サービス名またはサービス名。ユーザーは、接続するサービスに対する接続文字列内に、接続識別子とともにユーザー名およびパスワードを渡すことで接続要求を開始する。たとえば、次のようにする。

```
SQL> CONNECT username/password@connect_identifier
```

ディレクトリ・サーバー (directory server)

LDAP 準拠のディレクトリ・サーバー。ディレクトリは集中化された記憶領域を提供し、データベース・ネットワーク・コンポーネント、ユーザー方針およびコーポレート方針の作業環境、ユーザーの認証およびセキュリティの情報を取り出し、クライアント側とサーバー側のローカル・ファイルを置き換える。

ディレクトリ情報ツリー (Directory Information Tree: DIT)

エントリの識別名 (DN) のディレクトリ・サーバー内の階層的なツリー構造。

ディレクトリ・ネーミング (directory naming)

ネット・サービス名を接続記述子に解決するディレクトリ・サーバーを指定する [ネーミング・メソッド](#)。ネット・サービス名はディレクトリ・サーバーに一元的に保存される。

ディレクトリ・ネーミング・コンテキスト (directory naming context)

ディレクトリ・サーバー内の重要なサブツリー。通常、編成されているいくつかのサブツリーの一番上となる。一部のディレクトリでは固定されたコンテキストのみ許される。他はディレクトリ管理者により構成される。

デフォルト・ドメイン (default domain)

ほとんどのクライアント要求が発生するネットワーク・ドメイン。クライアントが置かれるドメイン、またはクライアントがネットワーク・サービスを要求するドメインとなることがある。デフォルト・ドメインは、修飾されていないネットワーク名要求に追加されるドメインを決定するクライアント構成パラメータにもなる。"." 文字を含まない場合、名前要求は修飾されない。

ネーミング・メソッド (naming method)

クライアント・アプリケーションで、データベース・サービスへの接続の際、接続識別子をネットワーク・アドレスに解決するために使用される解決方法。Oracle Net Services は、次のネーミング・メソッドをサポートする。

- ローカル・ネーミング
- ディレクトリ・ネーミング
- Oracle Names
- ホスト・ネーミング
- 外部ネーミング

ネット・サービス名 (net service name)

接続記述子に解決されるサービスの単純名。ユーザーは、接続するサービスに対する接続文字列内に、ネット・サービス名とともにユーザー名およびパスワードを渡すことで接続要求を開始する。たとえば、次のようにする。

```
SQL> CONNECT username/password@net_service_name
```

必要に応じて、ネット・サービス名は次のような様々な場所に格納できる。

- ローカル構成ファイル（各クライアントの tnsnames.ora）
- ディレクトリ・サーバー
- Oracle Names Server
- 外部ネーミング・サービス（Network Information Service (NIS)、セル・ディレクトリ・サービス (CDS) など）

汎用命名規則 (Universal Naming Convention: UNC)

汎用命名規則 (UNC) は、ネットワーク・ドライブをドライブ名にマッピングせずにネットワーク上のファイルへアクセスする手段を提供する。UNC 名は次のように表される。

```
¥¥computer name¥share name¥filename
```


プロセス間通信 (Interprocess Communication: IPC)

クライアント・アプリケーションで使用されるプロトコルで、データベースとの通信のために **リスナー** と同じノードに置かれる。IPC は、TCP/IP よりも高速なローカル接続を提供する。

プロトコル・アドレス (protocol address)

ネットワーク・オブジェクトのネットワーク・アドレスを識別するアドレス。

接続が行われるとき、クライアントとその要求の受信者 (**リスナー**、Oracle Names Server または Oracle Connection Manager) は同じプロトコル・アドレスを使用して構成される。クライアントはこのアドレスを使用して接続要求を特定のネットワーク・オブジェクト位置に送信し、受信者はこのアドレスで要求のリスニングを行う。クライアントと接続受信者に対して同じプロトコルをインストールし、同じアドレスを構成することが重要である。

リスナー (listener)

サーバーに常駐するプロセスであり、クライアントからの接続要求のリスニングおよびサーバーへの通信量の管理を行う。

クライアントがデータベース・サーバーとのネットワーク・セッションを要求するときに、リスナーは実際の要求を受け取る。クライアント情報がリスナー情報と一致した場合、リスナーはデータベース・サーバーへの接続を許可する。

ローカル・ネーミング (local naming)

ネット・サービス名を接続記述子に解決する **ネーミング・メソッド**。この名前は、各クライアントの **tnsnames.ora ファイル** に構成および保存される。

数字

- 3DES_112 Encryption サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
- 3DES_168 Integrity サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2

A

- Active Directory サポート
 - Oracle との統合のためのインストール前の要件,
2-7
- 「Administrators」グループ
 - Oracle インストールの要件, 4-2
- Advanced Queueing API
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
 - 定義, A-5
- Assistant Common Files
 - 定義, A-5

B

- BaliShare, A-5

C

- Character Set Migration Utility, A-16
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- CyberSafe サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2

D

- Database Verify Utility, A-16
- DBUI, A-5
- DCE サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
- DES40 Encryption サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
- DES56 Encryption サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2

E

- Entrust サポート
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
- EWT, A-5

F

- FAT
 - システム要件, 2-3

I

- ICE Browser, A-5
- installActions.log ファイル, 2-2, 4-8
- Inventory ディレクトリ, 4-8

J

- Java Runtime Environment
 - Oracle バージョン, 1-5
 - 定義, A-6
 - 変更の制限事項, 1-5
 - 要件, 2-3

Java Swing Components, A-5
JDBC, A-12
JRE, 「Java Runtime Environment」を参照
JVM Accelerator
定義, A-17

K

Kerberos サポート
使用可能なインストール・タイプ, A-2
Kodiak, A-5

L

LDAP 準拠のディレクトリ・サーバー
ディレクトリ・サーバーでクライアントを構成,
3-4
LU6.2 プロトコル・サポート, xxi

M

MD5 Integrity サポート
使用可能なインストール・タイプ, A-2
Microsoft ODBC 仕様
Oracle ODBC ドライバが準拠する, A-14
Migration Utility, A-16
MS-DOS モード
NLS_LANG パラメータの設定, C-5

N

Net Services
「カスタム」インストール・タイプによるインス
トール, 4-7
構成に必要なユーザー入力, 3-2
削除, 4-10
サポートされる構成方法, 3-2
ネットワーク構成ファイルの場所, 3-3
netca.rsp ファイル
説明, B-2
NLS_LANG パラメータ, C-2
MS-DOS モードおよびパッチ・モードでの設定,
C-5
地域およびキャラクタ・セットのデフォルト, C-3
NTFS
システム要件, 2-3
ファイル・システム権限の設定, 5-2

O

Object Type Translator
使用可能なインストール・タイプ, A-2
定義, A-6
OCI
使用可能なインストール・タイプ, A-3
定義, A-7
ODBC, 「Oracle ODBC ドライバ」を参照
OPSS\$
構成, 3-5
Optimal Flexible Architecture
インストールの問題および制限事項, 1-2
Oracle Administration Assistant for Windows NT
定義, A-6
Oracle Administrative Assistant for Windows NT
使用可能なインストール・タイプ, A-2
Oracle Advanced Security
Oracle Enterprise Login Assistant, A-2
Oracle Enterprise Security Manager, A-3
Oracle Wallet Manager, A-3
SSO サポートの定義, A-7
Thin JDBC Java ベースの暗号化サポート, A-3
暗号化と整合性のサポート, A-2
暗号化と整合性のサポートの定義, A-7
インストール後の構成タスク, 5-4
インストール前の要件, 2-7
エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ, A-2
エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ・サ
ポートの定義, A-7
概要の定義, A-6
使用可能なインストール・タイプ, A-2
認可サポートの定義, A-6
認証サポート, A-2
認証サポートの定義, A-6
Oracle Call Interface
使用可能なインストール・タイプ, A-3
定義, A-7
Oracle Change Management Pack
使用可能なインストール・タイプ, A-3
Oracle COM Automation
定義, A-7
Oracle Diagnostics Pack
使用可能なインストール・タイプ, A-3
Oracle Directory Manager
使用可能なインストール・タイプ, A-3
定義, A-8

- Oracle Enterprise Login Assistant
 - Oracle Advanced Security の機能, A-2
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
 - 定義, A-9
- Oracle Enterprise Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-9
- Oracle Enterprise Manager Client
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-9
- Oracle Enterprise Manager Configuration Assistant
 - 定義, A-9
- Oracle Enterprise Manager Integrated Applications
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-10
- Oracle Enterprise Manager Quick Tours
 - 定義, A-10
- Oracle Enterprise Manager Web Site
 - 定義, A-11
- Oracle Enterprise Manager コンソール
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-10
- Oracle Enterprise Security Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-11
- Oracle Forms Server Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-8
- Oracle Help for Java, A-5
- Oracle Home Selector
 - 定義, A-11
- Oracle HTTP Server
 - インストール後の構成タスク, 5-5
 - 定義, A-11
- Oracle *interMedia* Annotator
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
- Oracle *interMedia* Client Option
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-11
- Oracle *interMedia* Java Client
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle *interMedia* Web Client
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle Internet Directory
 - MS-DOS モードでのコマンドライン・ツールの実行, C-5
 - グローバル化・サポートの問題, C-6
 - 削除, 4-10
 - ツールに必要な環境変数 NLS_LANG, C-6
- Oracle Internet Directory Client
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-11
- Oracle INTYPE File Assistant
 - 定義, A-11
- Oracle Java Tools
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle JDBC ドライバ
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-12
- Oracle Management Pack for Oracle Applications
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
- Oracle Migration Workbench
 - Oracle 以外のデータベースからの移行がサポートされる, A-12
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-12
- Oracle Net
 - 構成方法の選択, 3-3
- Oracle Net Configuration Assistant
 - sqlnet.ora ファイルの構成, 3-4, 3-5
 - tnsnames.ora ファイルの構成, 3-4
 - クライアント環境の構成, 3-4
 - 定義, A-13
 - ディレクトリ・サーバーでクライアントを構成, 3-4
 - ディレクトリ・サーバーへのクライアント・アクセスの構成, 3-4
- Oracle Net Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-13
- Oracle Net Services
 - インストール後の構成タスク, 5-5
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle Objects for OLE
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 2-2
 - 定義, A-14
- Oracle ODBC ドライバ
 - Microsoft ODBC 仕様に準拠, A-14
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-14
- Oracle Open Database Connectivity ドライバ, 「Oracle ODBC ドライバ」を参照
- Oracle Programmer

- 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle Provider for OLE DB
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 2-2
 - 定義, A-15
- Oracle Services for Microsoft Transaction Server
 - Microsoft Transaction Server のインストールが必要, 4-7
 - 「カスタム」インストール・タイプによるインストール, 4-7
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle Spatial Index Advisor
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
- Oracle SQLJ
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-15
- Oracle Standard Management Pack
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
- Oracle Syndication Server
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle Text Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-15
- Oracle Tuning Pack
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
- Oracle Ultra Search Middle Tier
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle Universal Installer
 - 8.1.5 より前のホームへのインストールの制限事項, 1-5, 4-3
 - Net Services 環境の構成, 3-2
 - Oracle Net Configuration Assistant の実行, 3-3
 - Oracle Net 構成方法の選択, 3-3
 - インベントリ, 4-8
 - 異なる言語での実行方法, B-3
 - コンポーネントの削除, 4-10
 - コンポーネントを異なる言語で実行, B-4
 - サイレント・モードでの実行, B-2
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 使用方法のドキュメント, 1-5
 - 定義, 1-4, A-15
 - データベースの作成, 3-2
 - 非対話形式モードでの実行, B-2
 - ログ・ファイル, 4-8
- Oracle Utilities
 - Database Verify Utility, A-16
 - Migration Utility, A-16
- MS-DOS モードでの設定, C-5
- Recovery Manager, A-16
- SQL*Loader, A-16
- インポート・ユーティリティ, A-16
- エクスポート・ユーティリティ, A-16
- 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- 定義, A-16
- Oracle Wallet Manager
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-3
 - 定義, A-16
- Oracle Workflow
 - Oracle との統合のためのインストール前の要件, 2-7
 - インストール後の構成タスク, 5-5
- Oracle Workflow Builder
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-16
- Oracle Workflow Mailer
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-16
- Oracle XML Developer's Kit
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-17
- Oracle XML SQL Utility
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-17
- Oracle9i Globalization Support
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
- Oracle9i Windows Documentation
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-4
 - 定義, A-17
- Oracle9i クライアント
 - 使用可能なインストール・タイプ, 1-5, A-2
 - 定義, 1-5
- Oracle インベントリ
 - ログ・ファイル, 4-8
- Oracle サービス
 - 停止, 4-3, 4-10
- Oracle ホーム
 - 単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 2-2
 - 単一ホーム・コンポーネントの 2 回目のインストール, 2-2
- ORADIM ユーティリティ
 - ドキュメント, A-16
- OTT
 - 使用可能なインストール・タイプ, A-2
 - 定義, A-6

P

PL/SQL

使用可能なインストール・タイプ, A-4
定義, A-18

Pro*C/C++

使用可能なインストール・タイプ, A-5
定義, A-18

Pro*COBOL

インストール後の構成タスク, 5-5
使用可能なインストール・タイプ, A-5
定義, A-18

R

RADIUS サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2

RC4_128 Encryption サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2

RC4_256 Encryption サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2

RC4_40 Encryption サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2

RC4_56 Encryption サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2

Recovery Manager, A-16

Replication Management API

使用可能なインストール・タイプ, A-5

S

Service Pack, 2-4

SHA-1 Integrity サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2, A-3

SQL*Loader, A-16

SQL*Plus

MS-DOS モードでの NLS_LANG パラメータの設定, C-5

使用可能なインストール・タイプ, A-5
定義, A-18

SQL*Plus Worksheet

定義, A-18

SQLJ Runtime

定義, A-18

SQLJ Translator

定義, A-19

sqlnet.ora ファイル

Oracle Net Configuration Assistant を使用した構成, 3-4, 3-5

SSO サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2
定義, A-7

T

Thin JDBC Java ベースの暗号化サポート

使用可能なインストール・タイプ, A-3

tnsnames.ora ファイル

Oracle Net Configuration Assistant を使用した構成, 3-4

U

UNIX

Windows での Oracle のインストールとの相違, 4-2

W

Web ベースのインストール, B-5

Windows

UNIX での Oracle のインストールとの相違, 4-2

Windows 98

最初の Oracle インストール後の再起動, 4-6, 4-7

Windows Terminal Server

サポートされないコンポーネント, 2-6

Windows XP

サポートされないコンポーネント, 2-6

Windows の Oracle サービス

停止, 4-3, 4-10

WINSOCK2 サポート

定義, A-19

X

XML

Oracle XML Developer's Kit, A-4, A-17

Oracle XML SQL Utility, A-4

あ

暗号化と整合性のサポート

使用可能なインストール・タイプ, A-2
定義, A-7

い

移行

Oracle 以外のデータベースから, A-12

インストール

8.1.5 より前のホームへのインストールの制限事項,
1-5, 4-3

UNIX と Windows での Oracle のインストールの相
違, 4-2

Web ベース, B-5

インストール・セッションのログの確認, 4-8

インストール前, 4-2

「カスタム」インストール・タイプ, 4-6

旧 Oracle Installer 使用上の制限事項, 1-5, 4-3

使用可能なインストール・タイプ, 1-5, A-1

使用可能なコンポーネント, A-1

単一 Oracle ホーム・コンポーネント, 2-2

手順, 4-3

非対話形式モード, B-2

要件, 2-3

Optimal Flexible Architecture, 1-2

インストール後

NTFS ファイル・システムの権限の設定, 5-2

Windows レジストリのセキュリティの設定, 5-3

個々のコンポーネントの構成要件, 5-4

インストール後の構成手順

ネットワーク・ソフトウェア, 5-5

インストール・タイプ

Oracle9i クライアント, 1-5, A-2

インストール前

Active Directory と Oracle9i の統合の要件, 2-7

Oracle Advanced Security の要件, 2-7

Oracle Workflow の要件, 2-7

個々のコンポーネントの要件, 2-7

サービスの停止, 4-3

タスク, 4-2

インストール・ガイド

使用可能なインストール・タイプ, A-4

定義, A-17

インポート・ユーティリティ, A-16

え

エクスポート・ユーティリティ, A-16

エンタープライズ・ユーザー・セキュリティ・サポー
ト

使用可能なインストール・タイプ, A-2

定義, A-7

お

オペレーティング・システム, サポート, 2-4

オペレーティング・システム認証による接続

構成, 3-5

か

拡張されたセキュリティ, 5-2, 5-4

「カスタム」インストール・タイプ

インストール, 4-6

定義, 1-5

「管理者」インストール・タイプ

インストールされるコンポーネント, A-2

定義, 1-5

き

機能, 新機能, xiii ~ xxi

共通マニュアルの参照先

Windows 固有の NLS_LANG の値, C-3

く

クライアント・コンポーネント

システム要件, 2-3

クライアントのインストール

手順, 4-5 ~ 4-7

レスポンス・ファイル, B-2

グローバル化・サポート, C-3

け

言語

異なる言語での Oracle コンポーネントのインス
トール, B-3

異なる言語での Oracle コンポーネントの使用, B-4

こ

コンポーネント

- Windows 98 上での手動による削除, 4-14
- Windows NT/2000/XP での手動削除, 4-13
- インストール, 4-3
- インストール後の構成ガイドライン, 5-4
- インストールに使用可能, A-1
- インストール前の必須要件, 2-7
- 互換性マトリックス, 2-6
- 異なる言語で使用, B-4
- サポート, 2-6
- 単一 Oracle ホーム, 2-2
- 単一 Oracle ホーム・コンポーネントの 2 回目のインストール, 2-2
- 単一 Oracle ホーム・コンポーネントのインストール, 2-2
- データベース、Oracle Internet Directory および Net Services サービスとレジストリ・エントリの削除, 4-10

さ

サービス

- 停止, 4-3, 4-10

サイレント・インストール

- 概要, B-2

作業を始める

- 概要, 1-6

削除

- Oracle コンポーネント, 4-13, 4-14
- Windows 98 上で Oracle を手動で, 4-14
- Windows NT/2000/XP 上で Oracle コンポーネントを手動で, 4-13
- データベース、Oracle Internet Directory および Net Services サービスとレジストリ・エントリ, 4-10

サポート, 2-6

サポートされないコンポーネント, xv ~ xvi, xxi ~ xxii

- Windows Terminal Server, 2-6

- Windows XP, 2-6

サポートされるオペレーティング・システム, 2-4

し

システム要件

- FAT および NTFS ファイル・システム, 2-3

- クライアント・コンポーネント, 2-3

新機能, xiii ~ xxi

せ

製品サポート, 2-6

そ

相違

- Windows と UNIX での Oracle のインストール, 4-2

た

大容量メモリー (VLM) のサポート, xv

単一 Oracle ホーム

- コンポーネント, 2-2

- 単一ホーム・コンポーネントの 2 回目のインストール, 2-2

て

ディレクトリ・サーバー

- ディレクトリ・サーバーへのクライアント・アクセスの構成, 3-4

データベース

- 削除, 4-10
- サポートされる作成方法, 3-2
- 大容量メモリーのサポート, xv

デフォルト・ドメイン

- 構成, 3-4, 3-5

と

ドキュメント

- Oracle Universal Installer の使用方法, 1-5

- レスポンス・ファイルの使用方法, B-2

トラブルシューティング

- Inventory ログ・ファイル, 4-8

に

認可サポート

定義, A-6

認証サポート

インストール前の要件, 2-7

使用可能なインストール・タイプ, A-2

定義, A-6

ね

ネーミング・メソッド

構成, 3-4, 3-5

ネット・サービス名

構成, 3-4

ネットワーク

Oracle Net 構成方法の選択, 3-3

ネットワーク構成ファイルの場所, 3-3

は

パッチ・セット情報, 5-4

パッチ・モード

NLS_LANG パラメータの設定, C-5

ひ

非対話形式のインストール

概要, B-2

必須、個々のコンポーネントの要件, 2-7

必須 Service Pack, 2-4

ふ

ファイル

Oracle Universal Installer ログ・ファイル, 4-8

ファイル権限, 5-2 ～ 5-4

ファイル・システム

システム要件, 2-3

よ

要件

Java Runtime Environment, 2-3

Oracle コンポーネントのインストール後, 5-4

インストール前, 4-2

クライアント・コンポーネント, 2-3

個々のコンポーネント, 2-7

個々のコンポーネントのインストール前の要件,
2-7

ら

「ランタイム」インストール・タイプ

インストールされるコンポーネント, A-2

り

リスナー

インストール前の停止, 4-3

リリース・ノート

使用可能なインストール・タイプ, A-4

定義, A-17

れ

レジストリ

使用時の注意, 4-13

セキュリティの設定, 5-3

レスポンス・ファイル

CD 上, B-2

インストール時の指定, B-3

クライアント・ファイルの説明, B-2

使用方法, B-2

ドキュメント, B-2

変更, B-2

ろ

ログ・ファイル

インストール・セッションの確認, 4-8